

全国視能訓練士学校協会

平成 25 年度教員研修会報告書

平成 26 年 3 月

平成 25 年度教員研修ワーキンググループ

はじめに

8月の残暑厳しい中、第6回教員研修を開催いたしました。

教員研修は、毎年多くの先生方にご出席いただき、各養成校の教育指導法について話し合い、情報の共有化をする良い機会になっているのではないかと思います。

第1回から第4回までの研修会は、教育講演とコマシラバスの作成をしていました。そして、昨年の第5回の研修会では、それまでの研修会内容と構成方法を変えて、教育講演と各養成校の教育現場の現状についてグループワークを行いました。その結果、各校の教育指導内容で課題となっていたところについて考える良い機会となり、参加して下さった各校の先生方から多くの反響を得ることができました。

今回の研修会は、第5回の研修会で得られたことから、教育講演と学生指導で課題としていることをテーマにあげてグループワークを実施しました。教育講演は、「『自ら学ぶ力』を育むためのヒント～have to から want to へ～」というテーマで大阪医療福祉専門学校理学療法学科の鈴木操先生にご講演いただきました。そして、グループワークでは①学内教育指導、②国家試験、③学生指導、④臨地実習前試験、指導、⑤臨地実習指導の5つのテーマのグループに分かれ、活発なディスカッションをしました。今回の教育講演とグループワークを通して、参加して下さった先生方は、各養成校の現状や指導法の工夫について知ることができ、今後の指導に活用できる多くの収穫が得られたのではないかと思います。

また、賛助会員によるセミナーは、「OCTで診る基本的な眼底疾患」（ジャパンフォーカス株式会社）を行いました。器械展示では、株式会社ティエムアイ様、ジャパンフォーカス株式会社様の2社から出展いただきました。

全国視能訓練士学校協会が主催する教員研修は、日本視能訓練士協会の専任教員認定の単位として、平成25年度から移行措置が適用されます。この教員研修が、各教員の指導力・学生の学力の向上につながり、情報交換することによって養成校間の連携を強めることができるような有意義な研修会になることを期待しています。

ここに、第6回教員研修会の報告をさせていただきます。

平成26年3月吉日

平成25年度教員研修ワーキンググループ

代表 小林泰子（川崎医療福祉大学）
横田敏子（大阪医療福祉専門学校）
提嶋紀枝（吉田学園医療歯科専門学校）
露無陽子（帝京大学）

目 次

研修日程	1
教育講演	
講師略歴	4
資料	5
グループワーク	
各班スライド	15
協賛会員協賛企画	30
研修風景（写真）	36
アンケート	
フォーマット	42
アンケート結果	44
意見・感想	47
アンケート単純集計	56
会長評価	57
編集後記	59
加盟校一覧	60

平成 25 年度 全国視能訓練士学校協会

第 6 回教員研修 プログラム

- 目的
1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、専門課程の教育指導方法の共有化、養成校教員の個々の指導スキルの向上
 2. 第 6 回の研修では教育講演とグループワーク（以下 GW）を通して、自ら学ぶ力の育成、各学校での指導内容と取り組み・改善について学ぶ。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会 専任教員	
開催日時	平成 25 年 8 月 21 日(水)～22 日(木)	
研修会場	大阪医療福祉専門学校	
研修テーマ	研修Ⅰ（教育講演） 「自ら学ぶ力」を育むためのヒント 研修Ⅱ（GW）「各学校での指導内容と取り組みと改善」	
教育講演	「自ら学ぶ力」を育むためのヒント ～have to から want to ～ 講師：鈴木 操先生（大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科 学科長）	
研修内容	教育講演と GW 1 日目：教育講演、GW、懇親会 2 日目：GW 発表、賛助会員セミナー「OCT で診る基本的な眼底疾患」 講師：ジャパンフォーカス株式会社 塩見一馬様	
8 月 21 日（水）	13:00	受付開始
	13:30	初日研修開始
	13:30-13:50	概略説明
	13:50-15:20	教育講演（大阪医療福祉専門学校 鈴木 操先生）
	15:50-18:00	グループワーク（各学校での指導内容と取り組みと改善）
	19:00-21:00	懇親会
8 月 22 日（木）	9:00	開場
	9:15-10:15	まとめ
	10:30-12:30	GW 発表
	12:45-13:30	賛助会員セミナー
	13:30-14:00	研修総括・終了証授与、写真撮影 研修終了、振り返りシート、研修後アンケート記載

教育講演

【講師略歴】 鈴木 操 (すずき みさお) 先生



- 昭和58年(1983) 早稲田大学教育学部教育学科卒業
競走部(体育会) 所属
- 昭和61年(1986) 筑波大学大学院体育研究科修士課程終了
同年 茨城大学工学部非常勤講師(一般体育)
- 昭和62年(1987) 香川県明善短期大学助手(健康科学ほか)
- 平成13年(2001) 香川県明善短期大学教授(健康科学ほか)
- 平成15年(2003) 大阪医療福祉専門学校理学療法士学科専任講師
- 平成20年(2008) 大阪医療福祉専門学校理学療法士学科学科長(現在に至る)

- 昭和62年～平成5年 香川県陸上競技協会選手強化委員
- 平成5年～平成11年 香川県陸上競技協会常務理事、選手普及強化専門委員会
副委員長

専門は、スポーツコーチング論、トレーニング論ほか。

資格等：日本体育協会陸上競技コーチ
日本体育協会公認アスレティックトレーナー
健康運動指導士 ほか

Have to～からWant to～へ



「自律性を育てるために」

目次

1.自律性とは・・・

2.なぜ今、自律性なのか？

- ①きっかけ
- ②洗脳されたゴール ～外発的動機づけ
- ③資本主義経済との関係
- ④価値観の転換を ～世代間の障害を克服するために
- ⑤高等教育での対応は？

3.自律性を育むには

- ①自律性を育むヒント(Want to～へ)
- ②Have to～をゴールにしてはならない
- ③Have to～からWant to～へ
- ④学生のWant to～を引き出し、強化するには？
(非指示的聴き方の実際)
- ⑤Want to～のゴール設定法

1.自律性とは

自律:自分で自分の行為を規制すること。
外部からの制御から脱して、**自身の立てた規範に従って**行動すること(広辞苑)。
自分をコントロールすること
周囲の環境に不満を言わないこと

自立:他の援助や支配を受けず、自分の力で身を立てること。
自分だけで物事をおこなう
自立心・・・自分だけの力で物事を行なって行こうとする気持ち(広辞苑)。

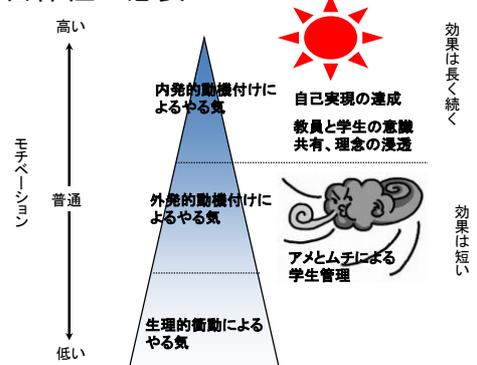
2.なぜ今、自律性なのか？ ①きっかけ

- 最近の高校気質(清水隆:大阪府教育センター)
- ・勉強しなくなった
 - ・穏やかになった
 - ・親とはぶつからない
 - ・社会よりも自分本位
 - ・未来よりも今が大切
 - ・学校は楽しいところ
- 実習指導者からの苦情
- ・社会人としての常識(挨拶・遅刻など)が欠ける
 - ・フィードバック内容をデイリーに書かない
 - ・受け身、自主性に欠ける
 - ・患者様とのコミュニケーションの指導に苦勞する
 - ・課題の不履行、ペースが遅い、期限守らない
 - ・自分の考え方への固執、視野が狭い
 - ・精神的に弱い

日本理学療法士協会
理学療法教育ガイドライン
卒前教育の到達目標では・・・

「理学療法の基本的な知識と技能を修得するとともに、**自ら学ぶ力を育てる(=自律性)**」

なぜ自律性が必要か？



内発的動機付けのための3要素

自律性: 自分のことは自分で決める

熟達: 何か大切なことについて上達したい

目的: 自分自身よりも大きな何かのために行動したい

2.なぜ今、自律性なのか?

②洗脳されたゴール～外発的動機づけ



競争。そして、ヘドニックレッドミル現象。

労働者は、ラットレースに巻き込まれる……

2.なぜ今、自律性なのか?

③資本主義経済との関係

経済構造的
囚人のジレンマ

資本主義で「上」を目指している人は、虚しい努力をしていると言われます…それは競争。

ある時、2人組の泥棒(泥棒Aと泥棒B)が警察に逮捕されました。なかなか犯行を認めない2人に対して、警察は次の提案をしました。2人に対する取り調べは、同時に別々の部屋で行われます。

泥棒は、

Win-Loseで、自分がいかにして釈放されるかを考えて、戦略を立て、情報を収集し、勝とうとする。

そういう競争心の持ち主です。

	Bが自白	Bが黙秘
Aが自白	A:懲役7年 B:懲役7年	A:釈放 B:懲役12年
Aが黙秘	A:懲役12年 B:釈放	A:懲役3年 B:懲役3年

個人の立場から: 自白しておけば、最悪懲役7年・うまくいけば釈放。= 妥当な選択のようである。…が、自分の利益を優先させたことにより、結果は悪くなっている

ヘドニック・トレッドミル現象

どんな環境や状況にも、人は必ず慣れてしまい、ついこの間まで嬉しくて幸福を感じていたものでも、飽きてつまらなくなってしまう現象のこと。そして、損益分岐点は伸び、ラットレースへと巻き込まれる・・・。

右肩上がりの経済下では「人よりも上」、「今よりも多く」を目指す傾向が強くなる



本来、成長や競争には目的がある。

ただ、「人よりも上」、「今よりも多く」を目指すのではなく、

人間一人一人が適度な成長・競争を踏まえた「全体として最良な選択肢」を選ぶことができるはず・・・

つまり、みんなが幸福になる社会を実現することは、可能はず。

・・・今、教育せずして・・・



2.なぜ今、自律性なのか？

④価値観の転換を 世代間の障害を克服するために

どうして、いつまでたってもしんどいの？

どうして、いつまでたってもお金持ちになれへんの？

もう、外発的動機づけに振り回されるのはやめましょう

ここで提案・・・



価値観の転換を！

高度経済成長～バブル崩壊までの価値観



バブル崩壊(1992～)以降の価値観。そして、10年後、20年後に通用する価値観へ！

価値観の転換を！

高度経済成長～バブル崩壊

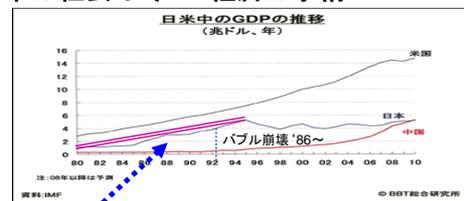
競争する、いかに勝ち残るか
戦略、Win-Lose、目標達成、
金、所有、成果主義、
外発的動機づけ、
コルチゾール、ドーパミン、
顕在意識型、
トップダウン、命令、権威主義
できない部分を指摘、
現状不満足・否定
自律性は育たない・・・



バブル崩壊(1992～)以降

共存・共栄、いかに生きるか
生き様、Win-Win、目的達成
仲間、貢献、利他主義、
内発的動機づけ、
ドーパミンではなくセロトニン
潜在意識型、
ボトムアップ、自主、現場主義
できている部分に注目・感謝
現状に感謝・肯定
自律性が育つ

日本の社会は今・・・経済の事情



昔は(・・・高度経済成長～バブル崩壊まで)

もっと便利に、快適に、安く(大量生産、大量消費、More&More教)

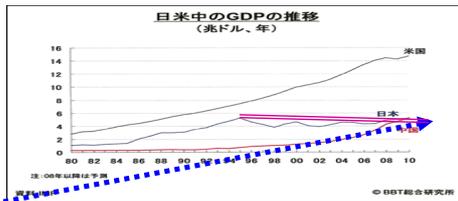
支配的リーダーが必要 競争原理(成果主義、学校教育)

社内教育は上意下達が成功の条件(命令⇔服従型)

権力に従えば昇進できた(自己犠牲、愛社精神)

家庭を顧みる余裕なし(家事、育児は女に任せる)

しんどいけど、夢があった(金、所有)。努力、忍耐が美德



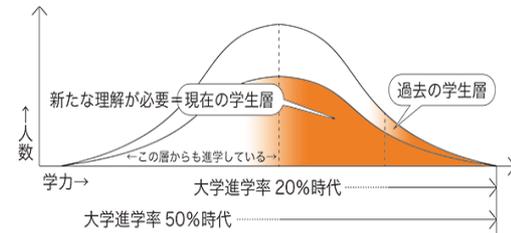
現代は・・・

市場は、経済成長下にあるアジアへ移転(グローバル化)
 権力に従っても昇進できるとは限らない(自己犠牲なし、愛社精神なし)
 上司は、命令・服従を強いるが、部下は面従腹背。やらせれ、心の病が多発。
 役職は飽和状態、リストラ対象になる(昇進しない。責任。下流志向・・・)
 競争原理(成果主義、学歴偏重)は通用しない。ゴールは？金、地位、名誉
 組織は、現場からのボトムアップ(トヨタ、花王の改革)。
 生活の安定よりも、「今が楽しいこと」や「生きがいの発見」が優先。

2.なぜ今、自律性なのか？

⑤高等教育(大学、専門学校)での対応は？

大学進学率50%超
 2018年 18歳人口再減少



3.自律性を育むには ①育むヒント

ヒント:自律性を育むには

永田勝太郎 医学博士

- 自尊心を満たしておくこと
- 人間を人間が評価しない(賞罰)
- 生理的安定を実感させる 居場所をつくる
- 命令、服従させない。やらされ感はストレス反応を引き起こす。

有田秀穂 東邦大医学部教授

- 渴望ストレスに対するドーパミン(ストレス反応は引き起こさないが、エンドレス)
- 利他愛によるセロトニン
- 内発的動機づけ(有能感を高める=達成したら褒める)
- 自己効力感を高める=自分ができると思う。

自律性を育むには

原田隆史:教師塾主宰

受容感を高める=任せる、存在に感謝する、役割を与える好きなことに没頭させる
 競争原理をうまくつかう

苫米地英人:計算言語学博士

競争の代わりにゲシュタルトメーカーへ
 ゴール設定を have to- から want to-へ

遠藤 功:早稲田大学教授

ボトムアップ思考の現場主義

白駒妃登美:歴史講座講師

目標達成型よりも天命、使命追求型へ

自律性を育むには

林 成之:医学博士

- 成果主義、経済優先の社会は、人間の脳が相いれない。
- 受け入れて、尊敬してから褒める。ただ褒めてもダメ。
- 自己報酬脳を刺激する統制感を高める=あと少しでできそうだと思うせる、
- A10細胞での快感 アルファ波
- あこがれの人の存在

鈴木敏恵:千葉大学特命教授

命令や指導で人は成長しない。ポートフォリオの活用

小林正観:社会学博士

足りないものを手に入れる幸せ論(競争、努力)から、すでにあるものに気付き、活用する幸せ論へ

自律性を育むには

W.レーネン:スピリチュアルカウンセラー

2000年から水瓶座の時代。競争は終わり、仕事上の成功とは、どれだけ楽しめたか、成長できたかが問われる。経験から学ぶ時代の到来。

V.E.ブランクル:精神科医

かけがえのない使命を自覚する。自分を待っている仕事、人がいることを自覚し、自分にしかできないことを意識すること。勝ち負けだけでなく、経験の意義を考える。

久塚 あさ美:メンタルトレーナー

Have to-からMust、そして Want-へ。制約の中で自分の軸をもつこと。

.....

好きなことを融合させて、新しい分野を創造する・・・

高度経済成長期の競争原理、画一的教育から脱却する・・・

3.自律性を育むには

②Have to~をゴールにしてはならない

Want to ~ したいからする、本当のゴール。

Have to~ 高度経済成長期の日本人の特徴的なゴール

Have to~の例：

- いい大学に入らねばならない、
 - いい会社にはいらねばならない、
 - 出世しなければならない、
 - お金を沢山もうけなければならない、など
- 世間的な先入観によって設定されやすい……

Have to~をゴールにしてはならない！

高度経済成長期の「まじめで良い子」をつくる法。・・・それは、Have to~で洗脳する。ダメの壁教育！！

ダメの壁教育は右脳の活動を低下させる！

ダメの壁とは、

- ・幼い時から親とか学校の先生に「あれはダメ、これはダメだ」と言われたり、「ダメな子ね」とダメ出しされたりしてうちに「自分ではできない」と勝手に思い込んでしまうこと。

Want to~をHave to~にしてしまう

1.権威(社会や、学校や、親)から評価判定される

個人の競争:合格・不合格。勝ち・負け。賞罰……

2.権威から、指示、命令、服従させられる

「今、自分がやろうと思っていたところなのに……」
やらされ感はストレス反応をおこす。心の病へ。

3.仕事や収入だけをゴールにしてしまう

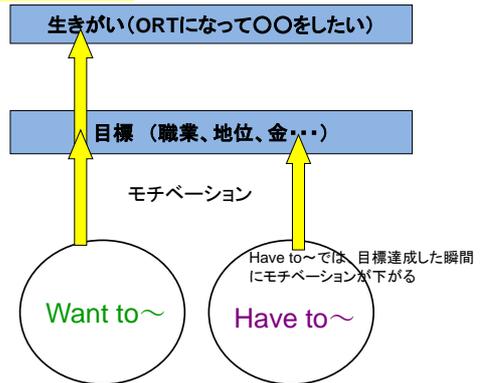
医者になりたい。歌手になりたい。国家試験合格してPT
になりたい。年収1000万以上。

(何をするために？が抜け落ちている。外発的動機づけ)



3.自律性を育むには

③Have to~からWant to~へ



Have to~をWant to~に変えるには

1.権威(社会や、学校や、親)から、与えられた過去の情動記憶(恐怖、不安)を消し去る。

公務員になって安定した生活を得る(恐怖、不安)

そのために、いい大学に入って、公務員試験に合格しよう。

→お金がなくても安心した生活は送れるんだ

→「思い込み」「無駄な努力」があることを知る

2.未来の「良い情動」にリアリティを持たせる

→わくわくするようなことを考える(好き、面白い)。

→本当のゴールをつくる(社会貢献)。

→あこがれの人を持つ(メンター、カリスマ)



3.自律性を育むには

④学生のWant to~を引き出し、強化するには？

a.評価判定しない → 形成的診断(評価)

PBL(CBL)

個人間競争しない

グループでの達成

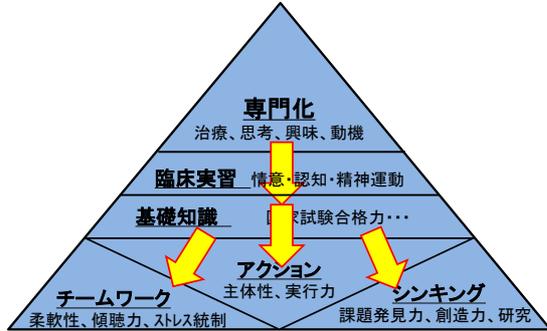
b.魅せる → プロの仕事を魅せる。カリスマ

c.「~したい」という欲求を浮き彫りにする

→ ロジャース、ゴードンの方法

b.魅せる

ヒント1: 専門化から、教養の裾野を広げる。
金沢工業大学や京都堀川高校や、奈良王寺工業高校の例



b.魅せる

淀川工科高校 吹奏楽部

顧問:「うちにはうちのサウンドがあります。淀工サウンドを聴いてください。」

淀工は吹き方とか荒いのですが、自分たちの音を聴いてくれという気持ちが伝わってきて、おまわず涙が出てきました。

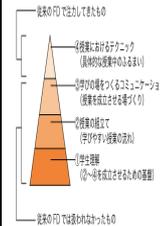
顧問:「マーチングでは、足並みをそろえようとしているうちは、まだまだ。たとえそろっていても美しくない。ひとりひとりが、楽しんで自分の思ったとおりに歩いて、それがそろったときに本当の美しさが出る。ここに金賞と銀賞の差が出ます。」

c.「～したい」という欲求を浮き彫りにするには？

非指示的/自己開示メッセージで
コミュニケーションをはかる

まず、何を欲しているのか？・・・を
自覚させる。そして学生を理解する

c.「～したい」という欲求を浮き彫りにするには？

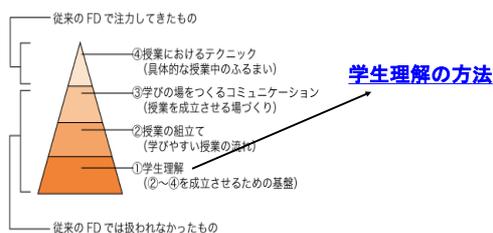


学生理解の方法

1. 学生を知る (思っていることを吐き出させる)
2. Yes, andでまず、受け止める
No, butは使わない!
例、「レポートの記述が細かく、ゴチャゴチャしている。Yes, and→とても詳しく書いたね。最も伝えたいところはどこかな？それがわかるように書くともっとよくなるよ。No, but→「こんな見にくいレポート誰も読めないよ。もっとわかるように書いてくれないと困る」
3. 傾聴する (事実と判断を混ぜないで聴く)
うなずきとリフレクティング
4. 自己開示メッセージを伝える

そして、どうすれば、学生へ思いが伝わるのか

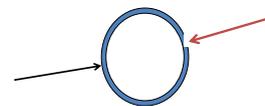
- ・カールロジャーズ 非指示的聴き方、
- ・トーマスゴードン 能動的聴き方
- ・他者評価メッセージではなく、自己開示メッセージ
- ・怒りの正体を知っておくとよい。すると、自己開示メッセージが可能。コツは、相手のできている・足りているところに焦点を当てる

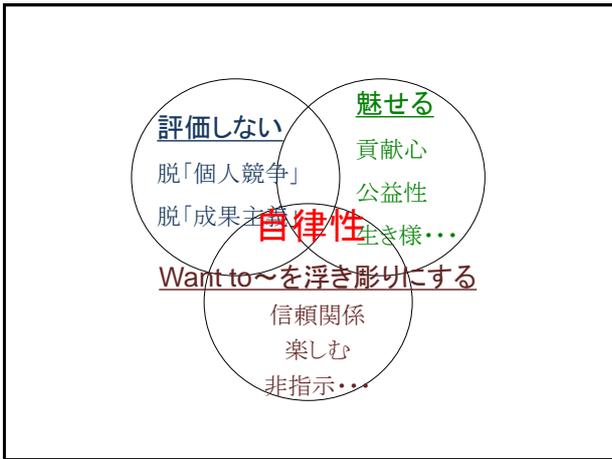


どうすれば、思いが伝わるのか・・・注意点

未完の円・・・欠けているところに意識が向いてしまう。
良いことや、成功している部下(学生)に対して、「それはできて当たり前、やってくれて当たり前」と思っていると・・・やがて、部下は評価に役立つことしかやらなくなる。
こうなると、部下は自律性を失い、ストレス反応を起こす。実は自律性を奪い、人間力破壊は、上司が仕掛けていた。

逆にできていることに焦点をあてて褒めてくれる。
評価してくれる→信頼、尊敬される上司へ(メンターとして)



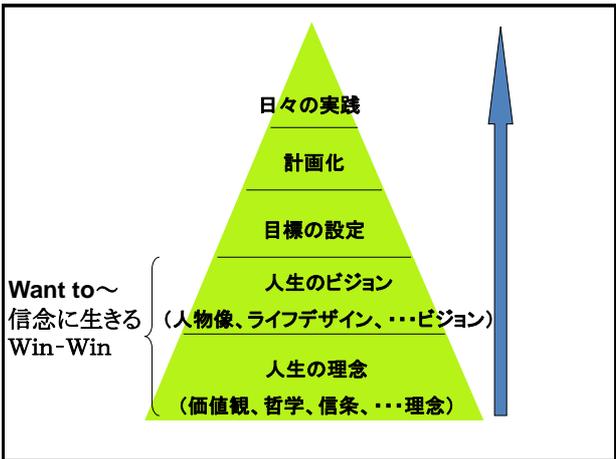
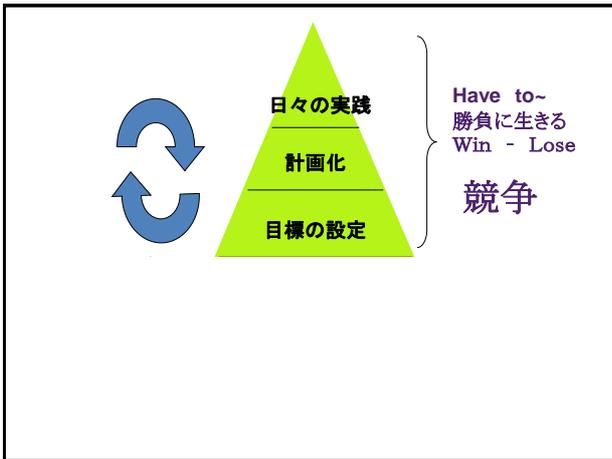


3.自律性を育むには

⑤Want to~のゴール設定法

- ビジョンを持ち、業界のニーズをつくりだす。
10年先のニーズを生み出す。社会貢献のあり方を考える
- 養成教育を通じて、自律的問題解決能力を有する人材を育成し、社会に貢献する。
- **目標達成型指導だけでなく、使命追求型指導を（人に貢献しようとする）**

養成教育を通じて優秀な人材を育成していく



グループワーク

グループワーク テーマ

- ①学内教育指導 1班
- ②国家試験 2班,3班
- ③学生指導 4班
- ④臨地実習前試験 5班
- ⑤臨地実習指導 6班,7班

テーマ ① 学内教育指導

1班

発表内容

- 基礎学力対策
- 成績下位対策
- 学内実習指導
- 卒業判定→実施していない養成校あり
- 卒研指導→実施していない養成校あり

基礎学力対策

専門学校：・お迎えテスト・補講、表現基礎・数学
・講義ノートチェック
・入学後実力テスト、学力別クラス分け教育

大学：・学力テスト(英語・日本語表現・算数)、テスト分け
・学力テスト(英語)、クラス分け

学校全体での取り組みと学科単位での取り組みがある
(専門学校は両方、大学は全体のみ)

成績下位者対策

専門学校・・・追再試、学生補習
・再試者対象の補習
・補講

大学・・・・とくになし
・4年留年者に2～3年の講義視聴
(ビデオ講義含む)を勧める

学内実習指導

	A校	B校	C校	D校	E校
人数	約48 ・3組18名編成、実習内容で4～6名の変更あり ・学生の性格・特徴を考慮	約30 ・2組編成、屈折別ニグループ約4名 ・学生の性格・特性を考慮	約30 ・基本7班、内容によっては4～5名グループに分かれる。 ・名簿順	42～56(47) ・7班、人数・寄数の場合はTA補助 ・成績別・名簿順、2種類グループ	約100～130 ・2組編成 2年：1組10班 3年：1組8班 ・原則くじ引き、学生の特性で調整
時期	1年前半～臨床実習直前	1年前半～臨床実習直前	1年後半～臨床実習直前	2年後期～3年後期	2年～3年
週コマ数	1年2～4コマ 2年4～5コマ 3年ブレ実習	1年4コマ 2年後期5コマ 3年ブレ実習	1年後期2～4コマ 2年最大12コマ 3年ブレ実習	2年後期1コマ 3年前期2コマ・強化実習1コマ(後期～強化実習のみ)	2年4コマ 3年4コマ
臨床実習	3年6月～9月	3年4月～9月末	3年5月～10月(学生により時期異なる)	3年8～9月、2～3月	4年(学生により時期異なる)
内容	座学後実習実習のみもあり	座学後実習実習のみもあり	座学後実習実習のみもあり	実習のみ	実習のみ

学内実習の工夫

専門学校：
・学科外(保育園児含む)を被検者にした実習、臨地実習前に低学年との検査実習
・保護者実習、特別支援施設実習
・臨地実習前に低学年との検査実習

大学：
・強化実習のみ成績別クラス別編成
・他学年を被検者にした実習、全講義ビデオ録画

学内実習まとめ

- カリキュラム編成上、大学と専門学校では、学内実習での工夫の仕方が異なる。
- 専門学校では、実習の回数・実習時間・実習方法等がフレキシブルに変更可能
- 大学はカリキュラムの縛りが多いため、教員のマンパワーと少人数制グループ編成で工夫している。
- 共通点は、レポート・実習課題・検査機器貸出・実習室開放等で学生の自習を促している。

全体のまとめ

学生の人数と特質に合わせて各校で独自の工夫がみられる。

テーマ ②A 国家試験

2班

各校の取り組み・課題・疑問点

- ・国家試験対策 時期・内容・模試・卒試
- ・既卒生への対応（留年生への対応）

国家試験対策

- ・時期・・・臨地実習終了後より開始
2,3年次：模擬試験・確認試験の実施
- ・内容・・・基礎固め
小テストの活用
国試過去問の解答・解説
模擬試験
卒業試験

たとえば・・・

国家試験対策

- ・実習期間中に視能学を読ませる。
読んだページ数を週1で必ずメール報告
- ・卒試2ヵ月間集中授業
1年次からの授業内容すべての再講義
- ・国試過去問解答解説集の作成
1年次から実施している所もあり
- ・成績不良者マンツーマン補習

模擬試験

- ・6～20回の模擬を実施
早い時期では記述式問題を取り入れる
- ・難易度を上げる回の設定
例) 10回中3,4回目, 10月, 11月頃の時期 等
- ・過去問ソフトの活用（シャッフル問題作成など）
- ・2,3年生（3,4年生）合同模試
- ・系列校での合同模試

模擬試験

- ・結果の提示
- ・レーダーチャートを作成し、見える化
- ・保護者への結果送付
- ・練習問題配布
「誤っているものを2つ選べ」などイレグ
ーな問題も取り入れる

今後の対策（日常編）

- ・ 学生の**自律**を促す！
例) 授業レジュメの廃止、黒板の活用
教員の**過保護**に注意！
- ・ 学習習慣のない学生・成績不良者の学生には**チェック**が必要

めりはりが大切！

今後の対策（模試編）

- ・ 模試回数の見直し
フードバックを重視！
- ・ 2択問題対策
視能矯正学第2版を読み込み、理解・定着させる
- ・ 過去問は分野ごとに整理したのちに全分野総合へ

基礎固めが第一！

既卒生・留年生対応

違い

- ・ 卒業に必要な単位がとれているか
＝卒試に合格しているか
- ・ 授業料が発生するかしないか
既卒生・・・発生しない

共通点

- ・ 国家試験対策授業・その他の授業の聴講

既卒生国家試験対策

4月からの生活基盤の聞き取り・把握が必須。

- ・ 就労の有無、就労時間の把握
- ・ 通泊距離・時間
- ・ 自宅or一人暮らし
- ・ 不得意科目

既卒生国家試験対策

- ・ 登校日 4月より1回～週3回
秋からは仕事辞めて毎日登校
- ・ 内容 不得意科目の聴講
小テスト・模試の実施
できた、曖昧、できないを自分で把握
- ・ その他 単独ではなくグループで勉強できる
環境づくり
基本在校生と共に 個別対応も必要

テーマ②B 国家試験の結果と対策

3班

各養成施設の合格率

第43回の合格率は今までと比べ
各校低かった。
(50%台から80%台)

今年の合格率が低かった原因

- ・「2つ選べ」の問題が多かった
(知識が定着していないと解けない)
- ・臨床経験がないと解けない問題(特に斜視・弱視)が出
題され学生レベルでは厳しかった
- ・覚えるだけでなく考える問題が増えた
→問題の傾向が変わった
- ・同じ傾向の問題でも表現方法を変えられると
解けない
→学生の基礎学力の低下

入学時の倍率

- ・ 大学・・・2～3倍程度
- ・ 専門学校・・・ほぼ全入
(基礎学力不足の学生が多い)

どの時期から国試対策を 始めているか

- 卒業年次・・・
4月から
臨床実習が終わった10月、11月から
それまで・・・(対応はいろいろだった)
1年から国試の過去問を配布
3年に国試の過去問を配布
2年の夏休みの課題として国試を渡す
1, 2年次は国試対策は行わず
- ・ * 配布する過去問は選択問題のみ、第1回から、43回のみ等各校で異なる

模擬試験

- ・ 4月 その年の国家試験問題
- ・ 8月 10月(マークシート・記述式)
- ・ 10月 (渡していない過去問)
- ・ 4月 7月 8月 10月 11月 12月 1月
(マークシート・記述式)
- ・ 4月12月(マークシート)

不合格者に対する対応

- ・聴講生制度の利用
(時期は養成校により異なる4月or11月)
- ・就職している者に対して教員が個別指導

国家試験に対するモチベーションが低い学生への対応

- ・担任制度がある養成施設は個別面談
- ・実技試験が不合格だった学生への個別面談
- ・マンツーマン指導

次年度以降の対応

- ・1年次から学習する習慣をつけさせる
- ・暗記ではなくて基礎学力の充実
(記述式の問題を解かせる)
- ・細部までのチェック
(応用力・思考力を養う)

テーマ③ 学生指導

4班

学生指導の問題点

モチベーションの低下が
最大の問題点である

入学前教育

オープンキャンパスで将来のビジョンを魅せる

ビジョンを
明確に！！



病院見学
➢ 体験実習
➢ 体験講義

入学生が持つ問題点を理解する

- ・基礎学力が低い
- ・メンタルが弱い
- ・家庭環境の複雑化
- ・障がいがある



教員で対処できるかを早期に見極める
→無理そうであれば、カウンセラー等の他のスタッフと連携

学生たちをフォローするには・・・

①定期的な面談

- ・ 時期:GW明けと6月の終わり、夏休み明け、冬休み前、年明け
→問題が発生しやすい時期
- ・ 内容;
➢1週間の行動履歴(1日の生活リズム)
➢学校生活で困っていること
➢学校生活で嬉しかったこと
- ・ →前向きになって自己肯定感を持ってもらう

② クラスマネジメント

クラスメートを知る

- 課外授業
- ポートフォリオ
- グループワーク

③ 細やかなアプローチ

- 遅刻、欠席する学生への連絡
何故連絡をしなければならないかを説明
あえて押し付けないように
提案するように
自分自身で考えさせるように
- 保護者との連携(客観的なデータを提示)
- 教員間での情報共有

③ 細やかなアプローチ

- クラスで孤立していないか
- 欠席、遅刻が増えていないか
- 提出物の期限が守れているか



日々の変化を見逃さない！
(特に1年生は注意)

④ 低学力者サポート

- 読み書き講座(レポート対策として)
- 自習時間を設ける(教員1名在中、1年生対象)
- 低学力者サポート塾(NPOIによる、1年生対象)
- 補講
定期試験の2週間前から
30分補講; 2年生毎日

まとめ

卒業時の自分の姿がイメージ
出来るように、促す指導を行う



モチベーションが上がる

テーマ④A
臨地実習前試験、指導

5班

前年までの指導（知識）

知識の確認

- ・ 接遇
- ・ 記録の書き方
- ・ カルテ読み方
- ・ 園児視機能評価実習
- ・ 高齢者視機能評価実習
- ・ 外来見学実習

前年までの指導（実技）

実技試験

- ・ 視力屈折
- ・ 眼圧
- ・ 視野
- ・ レンズメータ
- ・ 眼位・眼球運動
- ・ 斜視検査

※項目は施設ごとまちまち

前年までの指導（実技の評価）

チェック表を使用

- ・ 実習ガイドラインを元に
- ・ 施設独自・・・事前に学生に渡す

問題点

教員によって評価にばらつきがある

→1項目を一人の教員が評価する

→シンプルなチェック表を用いた評価

直前の指導

全施設、知識・技術の確認のみ

※臨床実習に行けないということにはならない

不安のある学生は個別に指導

直前の指導（知識）

- ・ 英語（略語）
- ・ 疾患
- ・ 国家試験を解かせる
- ・ 眼鏡・CLの扱い方（外部講師による）

直前の指導（実技）

- 全般の実技の確認
- 視力
- レンズメータ
- 眼圧
- 眼球運動・HESS
- GP・HFA
- 対応検査
- 立体視検査
- 大型弱視鏡など

直前の指導（接遇）

- 施設への手紙の書き方、電話のかけ方
- 身だしなみ、言葉遣い
- 挨拶の仕方

- 患者様への接し方
- 車椅子の扱い方
- 視覚障害の方の誘導の仕方
- 椅子への移乗

直前指導の問題点

- 簡単な知識の確認のみになってしまう
＝深い知識は確認できない
- 教員の負担大きい・・・時間的・人数的に
- 被検者の確保・・・他学年の時間割の問題など

理想

- 直前の指導ではなく、
普段の講義・実習から
臨地実習を視野に入れた指導
（科目として作る・・・）

- OSCE・・・より実践的な実技指導

結局は・・・

- 学生のやる気（自律性）引き出す
- クラスの雰囲気作り
が大切！！！！

テーマ④B 臨地実習前に 身につけさせたいこと

6班

臨地実習で起こる問題

- ▶ 基礎知識・実技レベルの不足
- ▶ 社会人としてのマナーを遵守できない
- ▶ できない自分を認めない
できないことを受け入れられない
- ▶ 指摘・指導に対する反抗的態度
などなど

教員の悩み(思いと制約)

- ▶ 臨床に出せるレベルに育てたい
知識・実技面
実習に臨む態度を始めとした人間力
- ↑↓
- ▶ 課題量に対して授業時間が足りない
 - ▶ 教員数の不足
 - ▶ 関連病院のない養成校も多い

そもそも……

病院が何かも知らない学生が
臨床に立てるようになるには
何が必要か？

臨床に立つために必要な準備①

- 1) 病院とはどのようなところか
診療とはどのようなものか
- 2) 患者とはどのような人たちか
小児とは？
障がいのある方とは？(視覚障害ばかりでなく)
高齢者とは？
- 3) 眼科ではどのような診療をしているのか

を知ることから……

低学年のうちから
階層教育が
必要！

各校の工夫

- ・ 病院見学
- ・ 高齢者・障害児(者)とのふれあい実習
- ・ 保育園での実習
- ・ 視覚障害関連施設の見学

関連病院を持たない施設では
病院を知らないまま実習に出ることも……

臨床に立つために必要な準備②

- ▶ 患者さんを知る
 - ・ 何に困って来院しているのか
 - ・ どんな気持ちか
 - ・ さまざまな個人因子
(性格、家族背景、社会的地位、理解力・・・)
 - ▶ 基本的知識と技術
 - ・ 正常者を正常に測定できる技量
- *安全・安心・快適に**

臨地実習 ー各校の状況と問題点ー

- ▶ 最高学年で病院実習に出る施設が多い
= 進級できれば臨床実習に行けてしまう状況
- ・ 進級判定には筆記と実技試験併用の施設が多い
- ・ 反面、授業時間数や教員数の関係により、
レポートのみで進級が決定する施設もある
- ・ 進級決定後、臨地実習開始までにタイムラグがあり、実技の力が低下する

各校の取り組み

- ▶ 実習前春休みに実技試験を実施
⇒ できなければ再試
- ▶ 科目授業の中で座学と実技を合わせて評価
- ▶ 中間試験を実施
期末試験と異なった項目で実技チェック
- ▶ OSCE形式の試験の実施
- ▶ ガイドラインによるセルフチェック

など

問題解決のために ー目指すべきものー

- ▶ 臨床現場に立てるレベルに到達させる
知識やスキルの質の担保
社会人としての立ち居振る舞い
コミュニケーション能力
- = 身につけさせたいこと
: 良い習慣・作法
- * 率直さ、誠実さ、他者への敬愛の念、意欲、誠実さ
- = **自律性!**

社会人として・人として
当たり前のことだが
現代の若者気質としての不十分さ

養成校で
育てなければならぬ・・・

このことこそが
学修の準備態勢

具体的方策

- ▶ 到達点の明示
 - ・ 実習ガイドライン等の到達点を示す
 - ・ 試験の課題ならびに評価項目と基準を示す
知識
実技
接遇
- ▶ 総合評価可能な評価課題の実施: OSCE
含: 接遇面における客観的評価基準の策定

実現手段

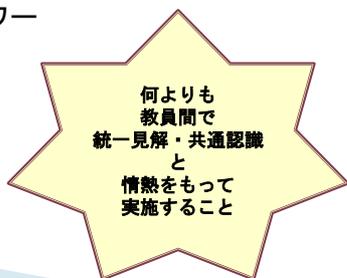
- ▶ 到達目標のセルフチェックと学生相互評価
- ▶ 臨地実習前に低学年学生等の検査の実施を通して練習
- ▶ 問題解決型アプローチ用模擬症例の作り込み
- ▶ 主観を排除した評価基準の策定
- ▶ 接遇・知識・実技の総合評価法(OSCE)の導入実施

まとめ

<立ちどころにいくつかの問題>

- ▶ 教員マンパワー
- ▶ 授業時間
- ▶ 費用

など



テーマ⑤ 臨地実習指導

7班

話し合った内容

- 接遇・マナーについて
 - 実習記録について
 - 実習先の割り振り方について
 - 実習評価が悪かった学生への対応
 - 実習生プロフィールについて
 - 新たな取り組み

接遇・マナー

挙げた問題点

- 挨拶が出来ない
- コミュニケーション能力が足りない
- 今の学生は自分へのメリットがあるかないかで判断してしまう

対応策

- コミュニケーション能力不足
 - コミュニケーションワークを社会福祉士の教員よりゼミ形式で指導を受けた
- 朝のあいさつ運動参加
 - 挨拶の大切さに自ら気付いてもらう
- 言葉遣いの指導
 - 「です・ます」調での言葉遣いの指導
 - 外部講師による接遇マナー講座の実施
 - 学生同士に問題提起をさせて話し合いをさせる

実習記録について

- 挙げた問題点
 - 文章能力が低い
 - 漢字が少ない
 - 参考文献を書かない
 - 実習病院によって求められる内容が違う
 - 論理的思考による考察が書けない

対応策

- 文章を読ませる練習と書かせる練習を行う
 - EX) 天声人語ノート、単行本を読ませてグループでまとめさせる
- 実習レポート課題を出す
- 文章表現の授業+就職試験で行われるような小論文を書かせて、添削指導してもらう
- 報告会を意識させたレポートを書かせるように指導する
- 実習前に問診をとる授業を行う

実習先の割り振り方

- 学生の自主性に任せる
 - 今年度の実習について先輩から後輩へ実習報告会を行う。下級生はその報告会で聞いた内容を下に、希望を出す。基本的に学生の希望を重視して決める。
- 希望は聞いておくと、基本的には参考程度

実習評価が悪かった学生への対応

- それぞれの学校での評価の違い
- 指導者の評価は主観的
 - 追加実習を行うこともある
 - 学内評価も行う（報告会・ペーパーテスト）

実習生のプロフィールについて

- 自己プロフィール
 - その病院を志望した理由も書く
- 得意科目・苦手科目
- 実習中の住所についても書いてほしいという指導者からの声
- 学生への書き方の指導として前年度の良いプロフィールをプレゼンテーション
- 学生同士のチェック
- 実習指導者打ち合わせ会で、学生同席あるいはビデオにて抱負と自己紹介を行う

新たな取り組み

- ファイリングをしやすいように、リングファイルを使用させる
- 学生と指導者にアンケートを取る
 - EX) レポート量・提出頻度等

平成25年度教員研修会グループワーク班員名簿

テーマ	1班	氏名	所属
①	1	藤戸 章子	吉田学園
	2	露無 陽子	帝京大
	3	田邊 宗子	愛知淑徳大
	4	松田 育子	平成医療
	5	大塚 美和子	大分視能訓練士

テーマ	4班	氏名	所属
③	1	田邊 恵子	仙台医健
	2	中島 貴友	帝京大
	3	進藤 真紀	東京医薬
	4	岸上 幸代	大阪医療福祉
	5	高崎 裕子	川崎医療福祉大

テーマ	2班	氏名	所属
②	1	四宮 敦志	吉田学園
	2	野原 尚美	平成医療
	3	田原 洋子	大阪医専
	4	松本 美香	大阪医療福祉
	5	難波 哲子	川崎医療福祉大
	6	松藤 佳名子	福岡国際医療福祉

テーマ	5班	氏名	所属
④	1	川岸 寿幸	吉田学園
	2	伊藤 歌奈子	東北文化学園
	3	望月 浩志	国際医療福祉大
	4	松井 康樹	平成医療
	5	横田 敏子	大阪医療福祉
	6	沼田 公子	九州保健福祉大

テーマ	3班	氏名	所属
②	1	山本 寛子	東北文化学園
	2	川村 祐子	新潟医療技術
	3	中込 亮太	帝京大
	4	平井 淑江	愛知淑徳大
	5	竹本 衣利	大阪医専
	6	佐方 暢子	大分視能訓練士

テーマ	6班	氏名	所属
④	1	提嶋 紀枝	吉田学園
	2	山上 薫	仙台医健
	3	小町 祐子	国際医療福祉大
	4	丸山 亜実	人間科学大
	5	潮井川 修一	福岡国際医療福祉

テーマ	7班	氏名	所属
⑤	1	鈴木 まゆ	東京医薬
	2	永谷 華代	京都医健
	3	田保 和也	大阪医療福祉
	4	小林 泰子	川崎医療福祉大
	5	齋藤 真之介	九州保健福祉大

①	学内教育指導；基礎学力対策、成績下位者対策、卒業判定、学内実習指導、卒研指導など
②	国家試験；模擬試験、次年度からの対策、いつからどのように、不合格者への対応など
③	学生指導； 面談の方法、回数、やる気のない学生への対応、生活習慣の改善指導法など
④	臨地実習前試験、指導；実習試験の内容、評価法、OSCE、実習記録の指導など
⑤	臨地実習指導； 実習日誌の指導法、・臨地実習期間中の学生への学校側からの指導、実習先で求められることの指導（学習面、人間性など）等

贊助會員協贊企画

賛助会員協賛企画

第6回教員研修の賛助会員セミナーでは、ジャパンフォーカス株式会社 塩見一馬様による「OCTで診る基本的な眼底疾患」を行った。また、機械展示は株式会社ティエムアイ、ジャパンフォーカス株式会社の2社から出展をいただいた。当学校協会では、協賛会員として現在5社からご賛同、ご協力を頂いている。研修の機会に併わせて器機・機材の最新情報の提供をいただき、学生教育にフィードバックできるように学校協会関係者は研修している。協賛のご依頼をしたところ、今回3社からのご協力を得ることができたので、併せて報告する。

〔第6回研修会協賛〕

- 株式会社ティエムアイ : 機械展示
- ジャパンフォーカス株式会社 : 機械展示、協賛会員セミナー

<機械展示>

機械展示会場では検査器具を手に取り、質問や説明を受ける風景があちこちで見受けられた。視能訓練士業務に関連した機器に特化した展示は学会と一味違い、集中して見る事ができたようだ。



今回で3回目になる協賛会員によるセミナーと機器展示は、教員として最新の知見や機器に触れる貴重なものである。日々多岐の業務に追われる教員にとっては的を絞ったこのような研修はありがたい。

最後に、今回ご協力を頂い2社に感謝申し上げるとともに、賛助会員の皆様には今後ともご支援いただきたくWG一同よりお願い申し上げます。

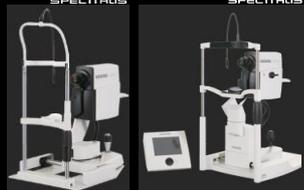
HEIDELBERG
ENGINEERING

賛助会員セミナー

- ジャパンフォーカス株式会社
- 塩見一馬様
- 「OCTで診る基本的な眼底疾患」

HEIDELBERG
ENGINEERING

OCT SPECTRALIS



(株)JFCセールスプラン

HEIDELBERG
ENGINEERING

OCT

- OCT
 - Optical Coherence Tomography
- 光干渉断層計

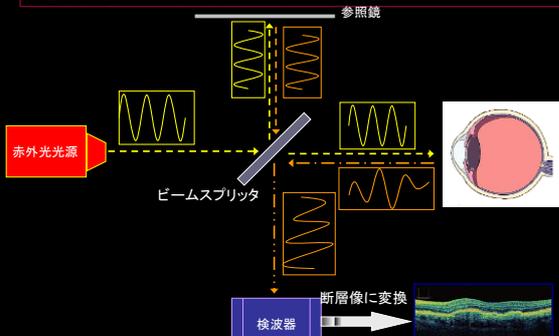
HEIDELBERG
ENGINEERING

光干渉断層計(OCT)とは

- 生体眼に弱い赤外光を当てて、反射して戻ってきた光波の強さや時間的なズレを検知し、この情報を換算して眼球構造の断層像を得る装置。
- 光の干渉現象を用いることによって、生体などを断層画像として観察測定できる装置。

HEIDELBERG
ENGINEERING

光干渉断層計(OCT)の原理



赤外光光源

ビームスプリッタ

参照鏡

検波器

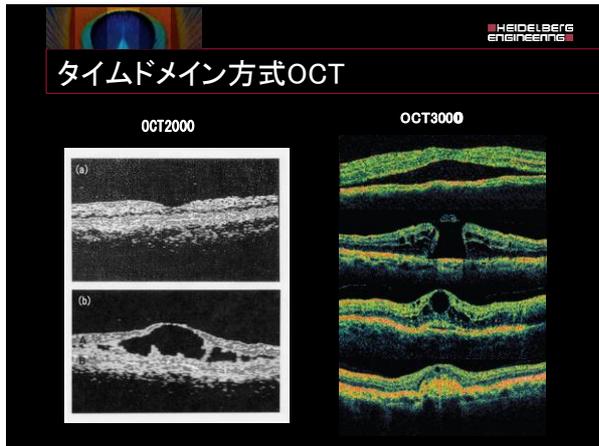
断層像に変換

HEIDELBERG
ENGINEERING

光干渉断層計(OCT)の歴史

- 1990年 OCT原理の提案(丹野ら)
- 1991年 OCT画像化の成功(Fujimotoら)
- 1996年 OCT2000(OCT1)米国上市
- 1997年 OCT2000国内上市
- 2002年 OCT3000(OCT3・StratusOCT)
- 2004年 C7
EG-SCANNER

タイムドメイン方式OCTの充実



光干渉断層計(OCT)の歴史

- 2006年 3D OCT-1000
- 2007年 RTVue-100
Cirrus HD-OCT
- 2008年 スペクトラリスHRA+OCT
SPOCT

タイムドメイン方式から
スペクトラルドメイン方式へ

タイムドメインvsスペクトラルドメイン

干渉波を検出する方法の違い

タイムドメイン

深さ方向(Z軸方向)の走査は参照鏡を動かして距離を変えるので機械的動作による高速化に限界がある。

タイムドメインvsスペクトラルドメイン

干渉波を検出する方法の違い

スペクトラルドメイン

回折格子によって波長毎に分光され、参照鏡を動かさずに深さ方向の情報が一括で得られる。
機械的動作が無く高速化が可能。

タイムドメインvsスペクトラルドメイン

SCAN

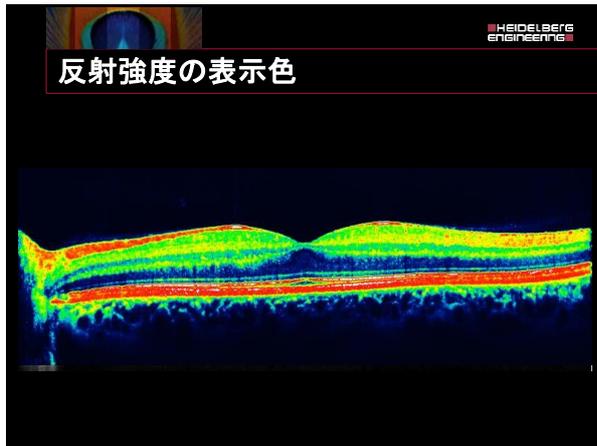
深さ方向+水平方向の走査

深さ方向の断層情報を一括に取得
走査は水平方向のみ

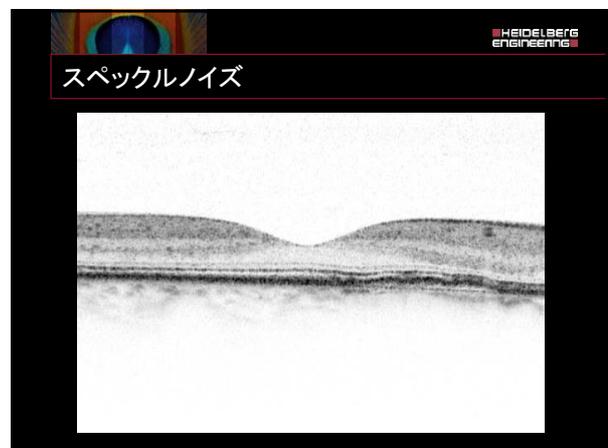
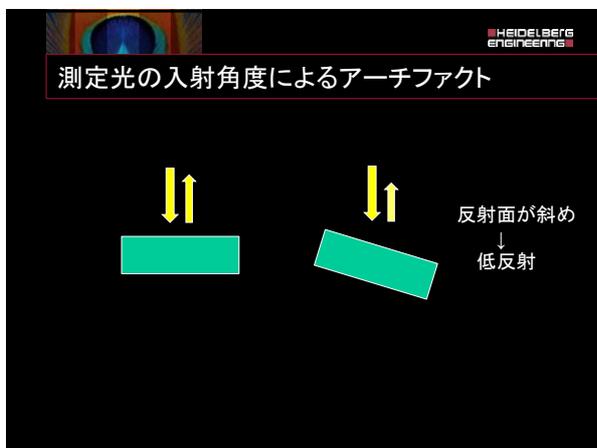
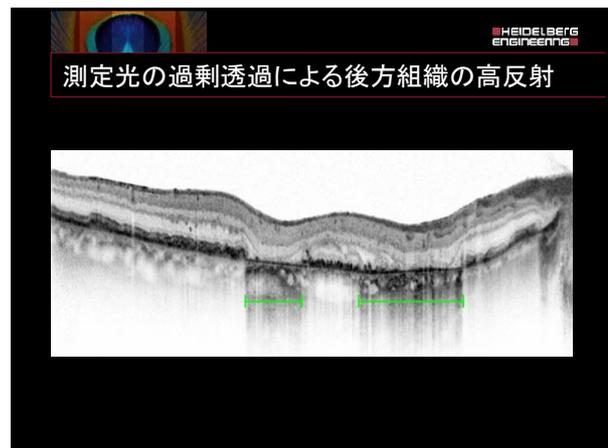
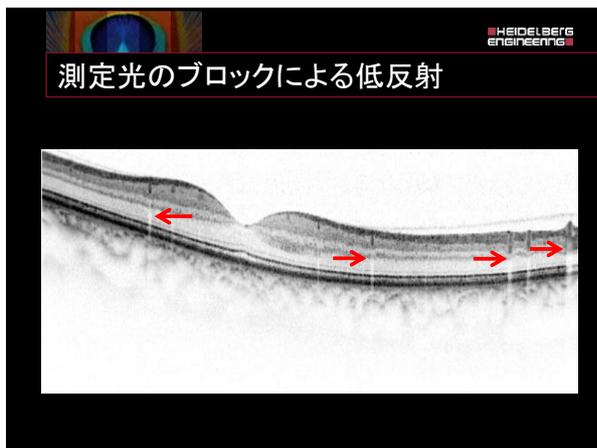
タイムドメイン方式 スペクトラルドメイン方式

タイムドメインvsスペクトラルドメイン

TD-OCT		SD-OCT
20 μ m	横断面分解能	10~20 μ m
約10 μ m	深さ方向分解能	約5 μ m 高分解能
512本	A-scan本数/1画像	4,096本
400scan/秒	A-scan速度	約27,000scan/秒 高速
1.3秒	撮影時間/1画像	0.04~0.05秒 高感度
1点からの反射光	画像化する光	反射光全体(効率良)
	信号感度(S/N比)	数十倍

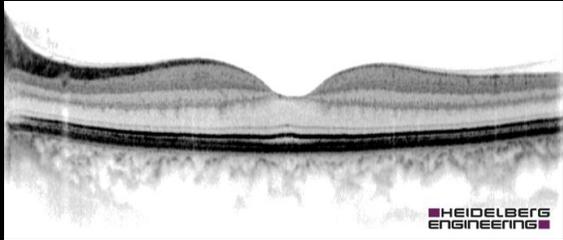


- HEIDELBERG
ENGINEERING
- ### OCTのアーチファクト
- 測定光のブロックによる低反射
 - 測定光の過剰透過による後方組織の高反射
 - 測定光の入射角度の傾きによる低反射



HEIDELBERG
ENGINEERING

加算平均法によるスペックルノイズ除去



HEIDELBERG
ENGINEERING

Heidelberg Noise Reduction Technology produces high resolution, high contrast images with less "speckle".

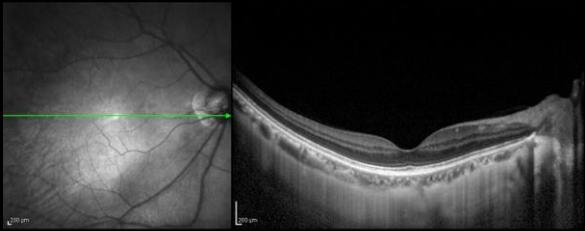
HEIDELBERG
ENGINEERING

撮影の困難な症例

- 強度近視眼
- ガス、シリコンオイル置換眼
- 中間透光体混濁
- 固視不良

HEIDELBERG
ENGINEERING

強度近視眼



20101224 OD
#8/OCT 30° ART (HS) ART(1) Q. 33

HEIDELBERG
ENGINEERING

研修風景

1日目 受付



教育講演



グループワーク



懇親会



2日目

グループワーク・発表



会長講評



修了証授与



集合写真



アンケート結果

第6回 全国視能訓練士学校協会 教員研修会 アンケート

全国視能訓練士学校協会教員研修ワーキンググループ

平成25年8月22日

第6回教員研修会へご参加いただきありがとうございました。

本研修会をよりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

◇ 教員歴 (年 ヶ月) 視能訓練士歴 (年 ヶ月)

1. 教員研修全体のプログラム構成について

- | | | | |
|---------------|------------|-------|------------|
| ① 教育講演 | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |
| ② 賛助会員によるセミナー | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |
| ③ 器械展示 | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |

2. 教育講演について

- ① 今回の講演の内容についてご意見・ご感想をお書き下さい。

- ② 今後、教育講演で聴いてみたい内容があればお書きください。

()

③ グループワークについて

- | | | | |
|-----------------------------|------------|-------|----------------|
| 1) グループワーク | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |
| 2) 時間配分は適切だったか | (適切である) | 長い | 短い (どちらともいえない) |
| 3) 個々の発表時間 | (適切である) | 長い | 短い (どちらともいえない) |
| 4) グループ人数 | (多い) | 少ない | どちらともいえない) |
| 5) その他ご意見、ご要望 (グループワークについて) | | | |

4. 研修会の運営について

- ① 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)
よくないとすれば、いつ頃がよいでしょうか ()
- ② 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)
- ③ 事前・直前アナウンスについて、何かご要望、ご意見等ございましたらお書き下さい。

- ④ その他研修会運営に関するご意見、ご要望等

5. 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)

6. また研修会に参加したいと思いますか (思う 思わない どちらともいえない)

7. コマシラバスの作成が研修会の中にあつた方がいいと思いますか
(思う 思わない どちらともいえない)

8. 参加費の金額(懇親会含む)はどのくらいがよいと思いますか
(4,000 円 5,000 円 6,000 円 7,000 円)

9. 研修会全体に対するご意見、ご要望

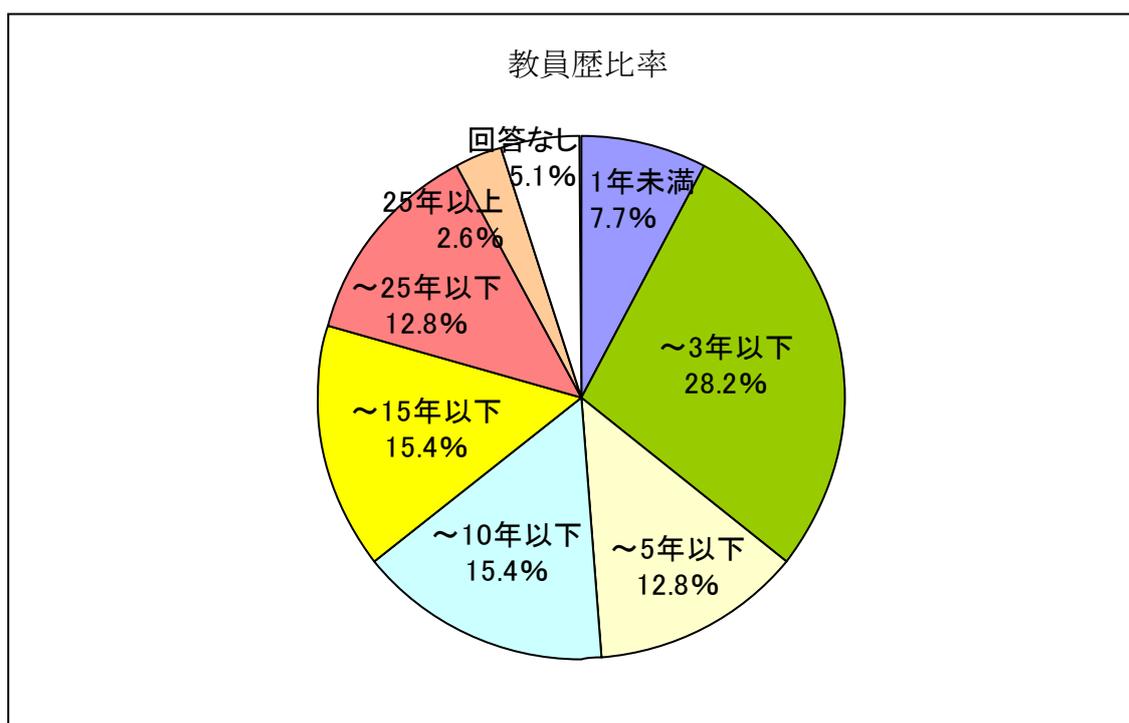
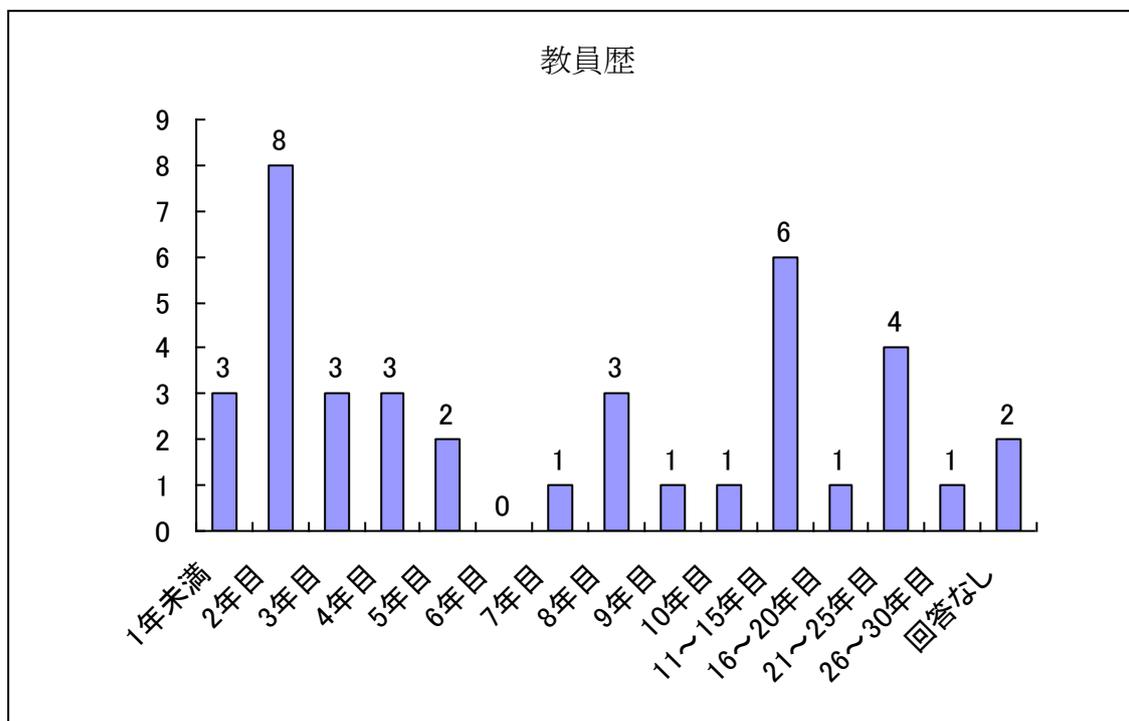
~~~~~  
最後に、研修会に対するご意見とは別に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください。

ご協力、ありがとうございました。

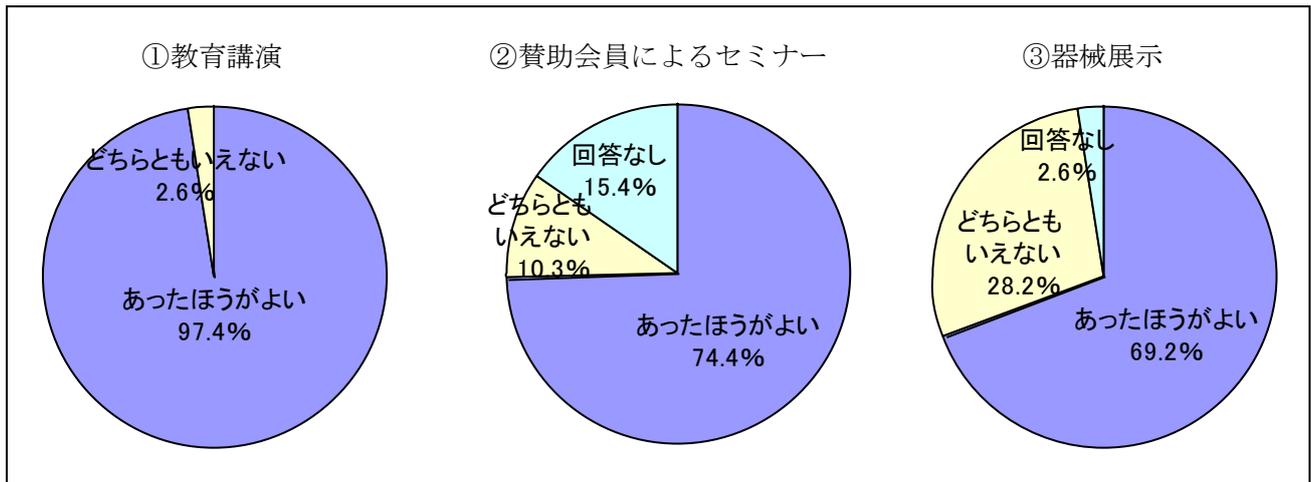
参加者人数 39 名

アンケート回答者数 39 名 (100%)

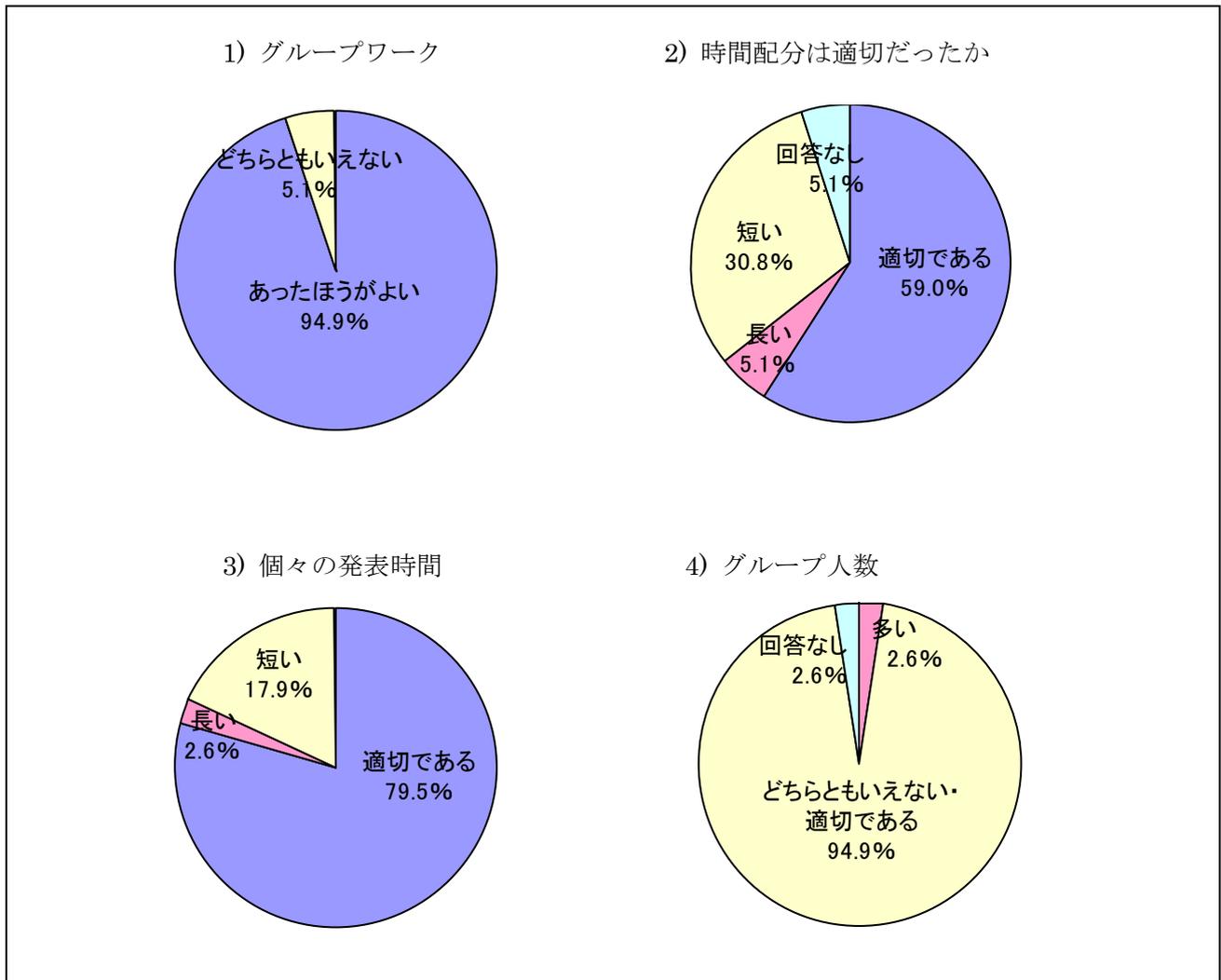
参加者教員歴



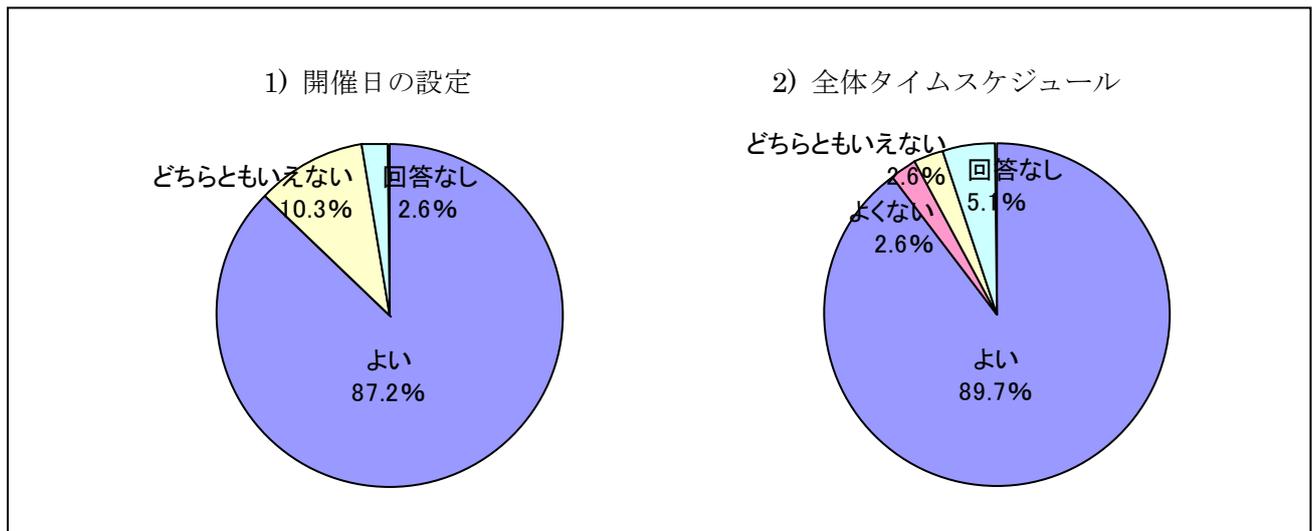
1. 教員研修全体のプログラム構成について



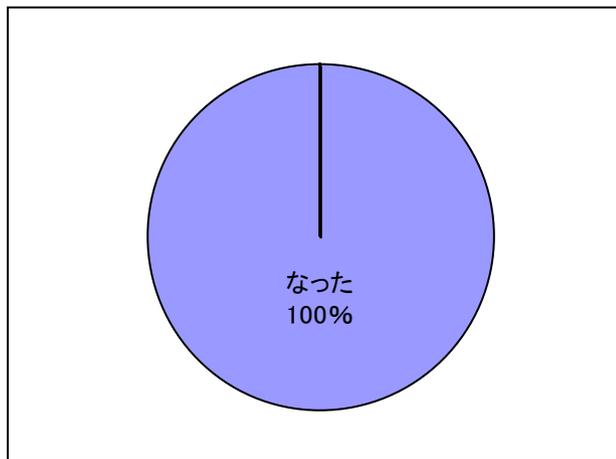
2-③. グループワークについて



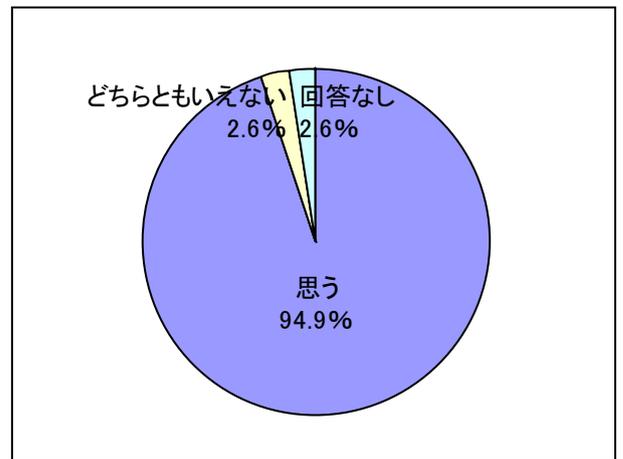
3. 研修会の運営について



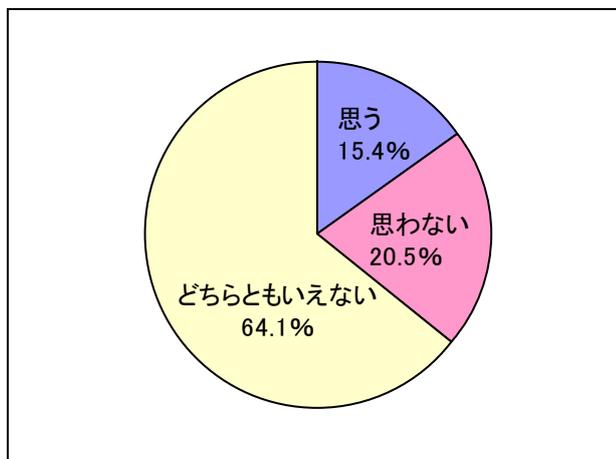
4. 教育活動の参考になったか



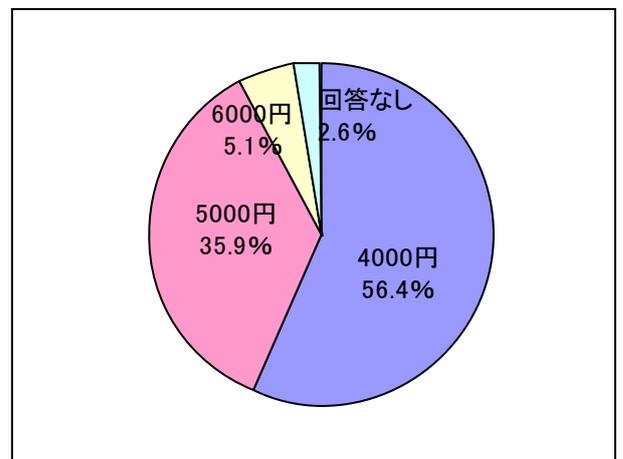
5. また研修会に参加したいと思うか



6. コマシバスの作成が研修会の中にあつた方がいいか



4. 参加費の金額はどのくらいが良いか



意見・感想

|                      |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教育講演<br/>について</p> | <p>意見・感想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ~しなさい、~したいと思わせるような教育をするためにどうあるべきか、又、どうすべきかを考える良い機会となりました。最後の10分ほどの実際の言葉がけの所をもう少し伺いたかったです。もし機会があれば第2弾として、実際の指導法の事例をあげながらお話が伺えたら嬉しいです。</li> <li>・ 学生とのコミュニケーションを取るうえで、大変参考になりました。普段の学生とのコミュニケーションの取り方で、反省する部分が多くあった。</li> <li>・ 心理学的なアプローチ法を利用した学生への接し方について知ることができ、今後の指導の参考になりました。</li> <li>・ 学生に対する指導について、こちら側が変わることによって“自律性”のある学生を育てることができるというのが印象的でした。今まで、自分自身がしてきた指導は“have to”になっていたと伴性しました。今後の学生指導にぜひ参考にさせていただきたいと思います。</li> <li>・ 日頃の自らの視点と違う角度で新鮮でした。ただ実際にそのまま取り入れるか否かは対する学生の状況による、ということも言えるかと思えます。専門教育のことで頭が一杯であるところに学生の指導についてのご提案を頂けることは大変ありがたいと思えました。ありがとうございました。</li> <li>・ 沢山のお話をさせていただき、学生と接するにあたって参考にしたいことがいくつかありました。その中でもバブル前後の考え方の違いは興味深く感じました。また、動機付けは、内発的な理想とは思いますが、現実的には外発的になってしまう部分はしかたないと感じました。内発的を目標としながら、外発的動機付けも同時にしていくというのも1つだと思います。</li> <li>・ 今後の学生指導の参考になった実践できることがあるので明日から実践していきたい。</li> <li>・ <b>Have to</b> ~から <b>Want to</b> ~への考え方について詳しく学ぶことができました。</li> <li>・ カウンセリング方法の具体例も教えていただき参考になった。また、今までの面談を振り返りとても反省した。</li> <li>・ 視能訓練士、眼科医の講演でなかったことが逆に貴重であり良かった。ただし、配布資料等をさらに活用してほしい。</li> <li>・ 若者気質が変わったことを嘆くのではなく、受け入れるべき時期が来たと感じました。明日からは能動的聞き方を取り入れていきたいと思えます。</li> </ul> |
|----------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                      |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教育講演<br/>について</p> | <p>意見・感想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイトル・サブタイトルは大変興味がありました。ご講演は大変わかりやすく、すばらしい内容でした。事前配布のプリント内容についても少し説明を加えていただくと、さらに良かったのではと思いました。自ら学ぶ力をつけさせたいと試行錯誤しております。参考にさせて頂きたいと思います。ただ、時間が足りなくて少し残念です。パワーポイントのレジュメがあれば良かったかなと。</li> <li>・ 学生面接のコツがわかってよかった。時代背景を含め、学生の姿、とらえ方を御教示いただきとても参考になりました。<b>Want to</b>への導きに視点をもって関わっていきたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 自分自身気づき行っていかなきゃと思っていたことですが、やはり日々学生と接すると、つい忘れがちになってしまっていたことですが、講演を聴き改めて取り組んでいこうと思いましたので、とても良い機会となりました。学生に対しての声掛けのやり方についてのシミュレーションをもっと見たかった。</li> <li>・ 教育について勉強してきていないため、学生対応で戸惑うことが多くあり、また臨機応変な対応が求められるため、今回の講義のような具体的なお話を聞くことができ大変勉強になりました。</li> <li>・ 学生と面談する上で、具体的な方法の提示があり、とてもわかりやすかったです。</li> <li>・ 「<b>Have to</b> から <b>Want to</b>」でこれからの教育の方向性を示して頂きました。「ダメの壁」を作らない、「内的動機づけ」の大切さを認識し実践していきたいです。無軌道の <b>Want to</b> にならないよう目指す方向をもった <b>Want to</b> を実践したいと思いました。</li> <li>・ 実践の学生への対応など具体的に聞いて非常に勉強になりました。早速実践して学生との信頼関係を作り上げることができるようにしたいと思います。</li> <li>・ 今の学生現状について理解しやすかったです。</li> <li>・ 今回のテーマとなっていた自律ですが、今までも学内での研修だったり重要だとは伺っていたので、改めて重要であることを感じました。どうしても学校での教育上視能訓練士になることだけが目標となってしまう、その先どうなりたいのかというのを考えるような機会が少なかったような気がするので知らず知らずのうちに“<b>have to</b>”になっているのかと感じました。</li> <li>・ 学生指導にとっても役に立つ内容であった。学生の自律性を高めるような指導を心掛けていきたい。</li> </ul> |
|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|              |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演<br>について | 意見・感想          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会情勢として貧富の差が大きくなっており若い人の夢が「正規雇用者」となることと聞いたりしますので、自分の存在を認め、目的を持って生きていくためのサポートが自分にできるかと考えさせられました。</li> <li>・ 具体的対応の内容があると参考になったと思うので、後半の内容に時間をかけた講座をより聞きたいと思いました。また機会があればよろしく願いいたします。</li> <li>・ 基本的なことでしたが、とても大事なことでしたので改めて立ち返って見直すきっかけになりました。</li> <li>・ 日頃の問題点とマッチした内容でとても勉強になりました。</li> <li>・ 新たな視点での学生指導について教えていただきとても勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ 内容をまとめたレジュメ 1 枚が頂けたら、もっと記憶に残り実践できるのではと思いました。大変すばらしい内容で感銘しました。</li> <li>・ もっと聞きたかった。もう少し時間があるとよかった。</li> <li>・ 他校のやり方や内容が見られたのでとてもよかったです。</li> <li>・ 人を受け入れるということは、やはり人の話（＝気持ち）を聞くということが大切だと感じましたが、「聞く」ための姿勢・技術を教員として身につけなくてはいけないと思いました。</li> <li>・ 現在の学生の姿をお教えいただき有難うございました。「自ら学ぶ力」を育むために各高等教育施設において様々な取り組みがなされておりますが、そのうち参考となりますような事例もお教えいただければと思います。</li> <li>・ 自律性を育てる学生とのコミュニケーション方法を明日からぜひ取り入れたいと思います。大変参考になるご講演ありがとうございました。</li> </ul> |
| 教育講演<br>について | 今後聞いて<br>みたい内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラム・マッピング</li> <li>・ 教育心理学の講師による動機づけの具体的方法</li> <li>・ 教員として必要な資質とか、学生との面接技法に関する講演</li> <li>・ 保護者対策など（クレーム等の対処）</li> <li>・ 教員として人間力、必要な事項等、教員力を向上させるための講演</li> <li>・ 講義で有効なパワーポイントの利用法</li> <li>・ 青年期の心理的問題について。講義資料作りについて。</li> <li>・ 教育論文の書き方</li> <li>・ オスキー法など話を伺うだけでなく、実演、指導者に対する実技指導など、実際の様子を拝見し、手法を習得できるような講習会ができると感じています。</li> <li>・ 今回の続き</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                     |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演<br>について        | 今後聞いて<br>みたい内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OSCE、PBLについて</li> <li>・ 学生指導について、「眼科」というよりも、「学校」ならではの内容をお願いします</li> <li>・ 学生カウンセリング</li> <li>・ カウンセラーによる学生心理</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| グループ<br>ワークに<br>ついて | 意見・要望          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間的にも内容的にも良かったと思います。今回は自分が話したい希望のGWはできたし、最後の発表ですべてのまとめが聞けたのでよかった。早く報告書が頂けると、より早く参考になりますので、よろしくお願いいたします。</li> <li>・ 現在かかえている問題について、解決のためのヒントが得られて良かったです</li> <li>・ 2時間で話し合っ、1時間でまとめるというのはなかなか大変でした</li> <li>・ 他校の教員の方の話を聞ける機会はあまりないので、グループワークで他校での取り組み等が聞けて大変勉強になりました。</li> <li>・ 時間が短く意見のまとめやプレゼンづくりに苦労した。</li> <li>・ 様々な規模の学校の現状を聞くことができて良かった</li> <li>・ 課題の範囲が広すぎるため時間配分は短すぎると感じました。発表時間や質疑応答の時間を取ることによって意見交換が出来ればよいと感じました</li> <li>・ 今回のような学生教育に直結する内容でグループワークを行ってほしい</li> <li>・ 発表時間についてはある程度守ってもらえるとありがたいのではないかと。進行、帰りの交通時間の都合もあるかと思います</li> <li>・ 今回のGW良かったです。ただ、突っ込んだ話を紹介するには発表時間が短く他の参加者にまで共有することが出来なかったかもしれません</li> <li>・ 臨地実習、国家試験などどのように他校が取り組んでいるのか、知りたかったので今後の参考となった。また低学力者が入学しているので、その対策(方法)など明日からの授業にいかにしていける利点となった。さらに低学力者は本校だけの問題でないことが分かり安心(?)した(算数が出来ないなど)</li> <li>・ 話し合う内容が多く時間が足りなかった。もう少し時間があるのと他校の話を聞けたのと思う</li> <li>・ 教員歴 ORT 歴の配分がちょうど良かったです</li> </ul> |

|                    |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>グループワークについて</p> | <p>意見・要望</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通の問題点を抱えていることが分かり、少し気持ちが楽になりました。又、各校の取り組み、先生方の姿勢を学ぶことが出来て、とても有意義な研修でした。事務仕事(時間割作成など)が多く、授業準備がなかなか出来ません。事務仕事な内容について</li> <li>・ 事前に参加者の施設情報をメール等で報告してもらっておくと話し合いが効率的であるかと思えます</li> <li>・ 普段、悩みながら手探りでやっている項目について、他校の先生方と共有できたこと、他校の試みを聞く機会を頂き良い刺激になりました。</li> <li>・ 7分では少し短い気が致します。講演を10分くらいに延ばしても良いのではないのでしょうか(質問を5分くらいに)</li> <li>・ 発表時間がグループにより違ったので、予行をする時間を設けたほうが良いと感じました。</li> <li>・ グループワークの時間をもう少し頂けたらと思いました。また、発表時間がきたら合図をしても良いかと思えます。今回のグループ分けが大学と専門学校の教員が混ざっていたために双方のお話が聞けて本当に良かったです。</li> <li>・ 自らの経験不足は当然ながら、教員として考えることがまだまだ不足していることが痛いほど認識させられました。得られたものを実践に向かわせることができるよう努力したいと思います。大変勉強になり刺激になりました。</li> <li>・ 参考になることもありますが、もっと具体的な内容が聞きたいと感じました。例えば「臨地実習の評価方法について」など、よりフォーカスしたテーマで、もう少し細かい内容まで聞けるとよいと感じました。</li> <li>・ 話の尽きない内容であったため、時間が足りない・短いと感じた。今後も引き続き情報交換していきたい内容ばかりでした。</li> <li>・ <b>GW</b>に入る前の導入で、もう少し説明がほしかった。</li> <li>・ もう少し具体的な話を聞きたいと思いました。7分で具体例を話すのは難しいかもしれませんので、発表時間が10～15分位ある方が良かったのではないかと思います</li> <li>・ 個々の発表時間は持ち時間(発表7分、質疑応答8分)の計15分以内でしたが、発表時間7分では内容からして短いのではと感じました。しかし研修日程から考えるとやむを得ないのは理解できます。タイムスケジュール通り進行され素晴らしい！！に尽きます</li> <li>・ 他施設のそれぞれの工夫が聞けてとても参考になりました</li> <li>・ もっと時間がほしかった。発表のディスカッションが参考になった。</li> </ul> |
|--------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | 意見・要望          | <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の希望、教員歴、年齢とバランスの良いグループになっていて、大変良かったです。グループ毎の検討そして各グループの発表から多角的に学ぶことが出来たと思います。もう少し時間的余裕があればさらに良いと思います。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 研修会運営について   | 開催日の設定         | <ul style="list-style-type: none"> <li>6～7月</li> <li>この時期しか開催できない</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|             | 事前・直前アナウンスについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>直前アナウンスまでは不要かと思います。(緊急時以外は)</li> <li>タイミング OK です。</li> <li>何回もしてくださり感謝しています。松井先生、横田先生、ありがとうございます。</li> <li>会場までの地図が分かりづらかった。</li> <li>事前、直前アナウンスのタイミングは良かったです。</li> <li>.</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|             | その他            | <ul style="list-style-type: none"> <li>初日はもう少し研修時間を短く。二日目は疲れがあるためスタート時間を30分程度遅くしていただくと肉体的負担はましになるような気がしました。空調がかなり寒かったです。</li> <li>良くしていただいたと思っています。</li> <li>場所も便利でありがたいです。</li> <li>細やかに連絡いただきありがとうございました。また、準備等も本当に大変だったと思います。ありがとうございました。</li> <li>いつも心がこもっていて感謝しています。</li> <li>スムーズな運営であったと思います。</li> <li>いつも安い参加費で本当に運営できるのか心配になる程、内容は素晴らしい研修会で本当にうれしく、有難く思っております。皆様のお陰と大変感謝致しております。ありがとうございます。</li> <li>2日目がほとんど機械展示を見に行かせていただける時間がなかったので、もう少し時間をいただけるスケジュールであればと思います。</li> <li>カリキュラムの関係などもあり、内容によっては専門学校と大学のグループを別にしてグループワークするのも良いかと考えました。</li> <li>GWのテーマの希望が第一希望で通ったのか、第二希望で通ったのかのお知らせはいつ頃来たのかわからなかった。(上長がメールを自分に転送するシステムだったのか? 直接メールを受信した覚えがない。)</li> <li>円滑な運営で、担当の先生方および大阪医療福祉専門学校の先生方に感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願い致します。</li> <li>とてもスムーズに行われ、勉強になりました。</li> <li>.</li> </ul> |

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修会<br/>全体に<br/>ついて</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この研修会に参加し、学生のモチベーションをあげる方法を得たのみでなく、私自身のモチベーション（学生指導）もあがりました。</li> <li>・ とても有意義でした。グループワークの課題も最適のものを選んで下さったと思います。</li> <li>・ ORT 歴、教員歴の同じくらいのグループにわけて、その歴ならではの悩み相談、ベテランからの意見などを交換できる機会があるとうれしいです。</li> <li>・ お疲れ様でした。ありがとうございました。</li> <li>・ 今回の分だとギリギリ講演の先生によっては足が出ることもあるのではないのでしょうか。軽食もあったので。</li> <li>・ 大変スムーズな運営をしていただき、充実した研修となりました。報告書の作成も残っていると思いますが、ひとまずありがとうございました。</li> <li>・ 運営スタッフの方々に感謝しています。大変だと思いますが継続することで若い教育者を育てていただければ幸いです。</li> <li>・ いつも有意義です。</li> <li>・ コマンラバスについては学内でも研修があるので、必ずあった方がいいかという少し考えてしまうのですが、ただ他の学校がどのような形式で行っているのかというのは聞いてみたいという思いもあります。</li> <li>・ 今回の会場のように、アクセスの良いところで開催していただけると大変助かります。</li> <li>・ たくさんの学校の先生方と話す機会はなかなかないので、毎年有意義な時間です。</li> <li>・ 全体の時間の設定、金額の設定、交通アクセスは適切でした。ただし、機械展示に行く時間がタイミングがつかめなく、業者の方に申し訳なかった。</li> <li>・ 参加費は第1回～第6回まで値上げをされていません。低価格は参加しやすくありがたいのですが、素晴らしい研修会内容、場所、懇親会でありながら、四千円でまかなえているのかと心配しています。</li> <li>・ 準備などお世話になりました。</li> <li>・ 企画、時間配分ともよいと思います。</li> <li>・ 来年も是非参加したいです。新しく入職した先生向けに、授業の進め方の紹介等きいてみたいです。</li> <li>・ 教育講演を踏まえて、各 GW に入ることが出来、より建設的グループワーク、発表になり、大変学び易く、良かったと思う。</li> </ul> |
| <p>感想</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろんな養成校の先生やその学校の方針などみなさんつつみかくすことなく意見をだしていただき、本当に参考になりました。後期授業へのヒント、又、今までのふり返りになりました。</li> <li>・ 懇親会等もうけていただいて、色んな学校の先生方とお話する機会となったので、とても勉強になりました。明日から学校に戻り、少しでも学生への指導に活かしていけたらと思っています。今回はこのような機会をもうけていただきありがとうございました。</li> <li>・ 初めて参加させていただいて、講演やグループワークの内容が勉強になったことはもちろんだが、何より他の施設の教員と話げできたことが何よりの成果になりました。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間的にユツタリしていて、懇親会もたのしくアクセスも便利で、赤松先生、横田先生達をはじめ大阪医療福祉の先生方に心から感謝です。また、湖崎先生のお元気な姿に感動いたします。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 短時間の中で研修者同士での打ちとけて討論に入るまでが難しい面があると感じました。また、大学と専門学校で同じ討論をすることが難しい面もあると感じました。</li> <li>・ 各校のそれぞれ独自の工夫を知ることができ、自校の制約、特性を考慮しつつも取り入れていきたいと思われることがたくさんありました。後期から早速活かしていきたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 様々な取り組みを拝聴させて頂き、参考になりました。</li> <li>・ 参加させていただくことで、毎年、頑張ろうという気持ちになります。ご講演で教えていただいたこと、各校の先生に教えていただいた事を活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 早く単位として認められるべきです。大変良いものなので。</li> <li>・ コマンラバス作成の研修会以来2年ぶりに参加させていただきました。今回は本校の今ある問題点について教員の皆さんにも共通していることがわかりました。また明日からがんばれそうです。ありがとうございました。</li> <li>・ 他校の先生方と情報交換が出来る良い機会だったと思います。</li> <li>・ 楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。</li> <li>・ 教員歴が浅く、<b>ORT</b> 育成と学生指導（担任業務）、オープンキャンパスなどすべてにおいて自信がなく、悩みばかりふえていたのが、今回の研修で少しすっきりしました。ありがとうございました。</li> <li>・ 指導上の困難、悩みが共通だと知り、また頑張ろうという気持ちになれました。何のトラブルもなく、おいしいお食事と運営にあたってお世話いただいた先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。</li> <li>・ 各学校の工夫を聞くことができたので、新しいアイデアの参考材料になり、非常に充実した研修となりました。</li> <li>・ 他校の先生方と意見交換でき、事例も聞かせて頂けて、楽しい2日間でした。又、学びの多い時間でした。</li> <li>・ 北から南まで日本の <b>ORT</b> 養成校の先生方と、お話しできる貴重な時間をありがとうございました。今回の研修会で得たことを、学生へフィードバックしたと思います。</li> <li>・ どの学校も同じ悩みを抱えており、逆に当校だけの学生が特別ということではない事がわかりホッとした気持ちもあります。入試の時に学生を選択できるようになると上位と下位の差が少なくなる気がしておりますので、もう少し知名度をあげて受験生を増やす努力をするとともに、下には手をかけ、上にはもっと伸ばせる教育を行っていくよう自分なりに考えて日々努力したいと感じております。ありがとうございました。</li> <li>・</li> </ul> |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベテランの先生のプレゼンの仕方が大変参考になりました。</li> <li>・ グループワークを通し、どの学校も皆さん悩まれている事は同じで学生気質もよく似ていることを知りました。各学校での取り組みをお聞きして、是非取入れさせていただきたいと思いました。このように情報を共有できる場を今後もずっと作っていただけたらと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 設置間もなく、他施設を参考にさせて頂きたいと考えますので、このような形で他の先生方とお話できる機会はとてもありがたいと思っています。他ではどうされているのだろう、ということの内容を学ばせて頂けるよう今後も参加したいと考えています。</li> <li>・ 他校との意見交換が大変有意義な時間となりました。2日間ありがとうございました。</li> <li>・ 各学校のよい部分を教育に取り入れていこうと思いました。実習、実技試験に関して自分なりに改善しようと思います。</li> <li>・ とても楽しく研修を受けることが出来た。全国から教員が集まる機会は少なく、非常に貴重な話を伺えた。ぜひもう一度参加したい。</li> <li>・ 各校の現状や取り組みなどを知ることが出来、大変参考になりました。GWはお互いにざっくばらんに話すことができる場であり、とても有意義でした。</li> <li>・ 私自身、内容の濃い研修会でした。グループワークおよび各班の発表にて学んだことを学生教育にとり入れていきたいと思っています。たくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。</li> <li>・ どの養成校でも同じような悩みをもっておられ、少しホッとしたところがあります。グループワーク発表で、参考にさせて頂き学生指導に役立てていきたいと思っています。OSCEについてもっと詳しく知りたいです。</li> <li>・ 教員が抱えている悩みを共有出来てよかった。ありがとうございました。</li> <li>・ 学生への対応には大変なことも多いですが、楽しんで係る姿で学生も育っていく学生の「自律」をうながす大切さをあらためて思った研修でした。</li> <li>・ 浅い教員経験の中で不安に思うことや、他校の対策法等を具体的にきくことができ、経験のある先生方や他校でも同じ様なことで悩んでおられることを知ることができ安心できました。情報が共有できたことも大変ためになりました。</li> <li>・ 他校の先生の取り組みが聞けてとても参考になりました。</li> </ul> |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

アンケート単純集計

| 設問                         |             | 回答       |              |           |           |      | 回答数 |
|----------------------------|-------------|----------|--------------|-----------|-----------|------|-----|
| 教員研修全体のプログラム構成について         | 教育講演        | あったほうがよい | 不要である        | どちらともいえない |           |      | 39  |
|                            |             | 38       | 0            | 1         |           |      |     |
|                            | 賛助会員のセミナー   | あったほうがよい | 不要である        | どちらともいえない |           | 回答なし | 39  |
|                            |             | 29       | 0            | 4         |           | 6    |     |
|                            | 器械展示        | あったほうがよい | 不要である        | どちらともいえない |           | 回答なし | 39  |
|                            |             | 27       | 0            | 11        |           | 1    |     |
| グループワークについて                | グループワーク     | あったほうがよい | 不要である        | どちらともいえない |           |      | 39  |
|                            |             | 37       | 0            | 2         |           |      |     |
|                            | 時間配分        | 適切       | 長い           | 短い        | どちらともいえない | 回答なし | 39  |
|                            |             | 23       | 2            | 12        | 0         | 2    |     |
|                            | 個々の発表時間     | 適切       | 長い           | 短い        | どちらともいえない |      | 39  |
|                            |             | 31       | 1            | 7         | 0         |      |     |
| グループ人数                     | 多い          | 少ない      | どちらともいえない・適切 |           | 回答なし      | 39   |     |
|                            | 1           | 0        | 37           |           | 1         |      |     |
| 研修会の運営について                 | 開催日の設定      | よい       | よくない         | どちらともいえない |           | 回答なし | 39  |
|                            |             | 34       | 0            | 4         |           | 1    |     |
|                            | 全体タイムスケジュール | よい       | よくない         | どちらともいえない |           | 回答なし | 39  |
|                            |             | 35       | 1            | 1         |           | 2    |     |
| 研修会は教育活動の参考になったか           |             | なった      | ならない         | どちらともいえない |           |      | 39  |
| 39                         | 0           | 0        |              |           |           |      |     |
| また参加したいと思うか                |             | 思う       | 思わない         | どちらともいえない |           | 回答なし | 39  |
| 37                         | 0           | 1        |              | 1         |           |      |     |
| コマシラバスの作成が研修会の中にあっただほうがいいか |             | 思う       | 思わない         | どちらともいえない |           |      | 39  |
| 6                          | 8           | 25       |              |           |           |      |     |
| 参加費はいくらがよいか                |             | 4000円    | 5000円        | 6000円     | 7000円     | 回答なし | 39  |
| 22                         | 14          | 2        | 0            | 1         |           |      |     |

## 会長総評

例年 8 月に行われる教員研修は今回で第 6 回を終了しました。全国から 17 校、38 名が参加され、アンケート結果は今年度も好評でした。教員研修は①視能訓練士養成施設の教育レベルの向上 ②専門課程教育指導法の共有化 ③専任教員個々の指導スキルの向上を目的とし、平成 20 年に始まりました。

この 6 年間に社会情勢、教育環境は劇的に変化しています。原因はなんといっても IT による生活変化があげられます。黒板とチョークでの授業の時代からパワーポイントになり、いよいよ「デジタル教科書」の時代に入ってきました。2013 年 12 月には学校教育法でまだ認められていない「デジタル教科書」を 2016 年度にも解禁すると報じられました。「デジタル教科書」はアイパッドやタブレット端末、パソコンを用い、動画表示や縮尺を自在に変えることにより理解が深まるとされています。授業では電子黒板と組み合わせて教材を提示でき、学生のプレゼンテーションもしやすくなります。教室外に持ち出すことにより、どのような場所・環境でも授業がすすめられます。宿題、予習、復習や今後はテストにも使用されていくでしょう。最近では「デジタル教材」を使用している予備校の TV 宣伝も多く見られるようになりました。

また遠隔教育・通信教育は平成十三年文部科学省告示第五十一号(大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等)により e ラーニングの手法を取り入れて「オンデマンド授業」という新しい授業方式の改善と普及が進んでいます。このような「いつでも、どこでも、臨場感のある教材」による授業を受けることができるようになってきています。また教育環境も変化しています。ゆとり教育は 1980 年に「教育の大衆化」、1992 年に新学力観、2002 年に「ゆとり・生きる力」2011 年に「ゆとり教育は正と生きる力の継続」と変遷をとげてきました。小学生の算数の教科書例にあげますと、1980 年以前は式や答えは記載せず、授業で掘り下げるようになっていきます。演習量も多く手を動かし計算し試行錯誤することにより学力を定着させる狙いがあります。それに比べて 1980 年以降演習量は少なく、ゆったりとした構成で興味関心をひくような写真を多用しています。自分で試行錯誤するのではなく、穴埋めタイプでそれにしたがっていけば正解にたどりつくようになっていきます。1992 年からは電卓使用も認められています。小学生の理科においても 1980 年以降は「実験の可視化」の教科書となっています。しかし、ゆとり教育が議論をよび、そこで脱ゆとりカリキュラムとして新学習指導要領が小学校は 2011 年から中学校は 2012 年から高等学校は 2013 年から(数学及び理科は平成 24 年から)実施されました。教科書のページ数も増えています。

このようにゆとり時代は懇切丁寧な説明や可視化された教科書で教育を行っていました。しかし、「ノートがとれるか」や「生きる力はついたか」について効果があがっているとはいえないことは新聞や TV などで報道されているとおりです。最近では黒板とチョークのみを用いる方法も見直されています。懇切丁寧な説明や可視化された教科書では理解しやす

い反面、そのまま憶えるという暗記的勉強になりやすくなってしまいうという欠点があります。すなわち、「考える力」「手と目と頭を同時に使う」ということをしなくなり、目でみた情報のみでノートをとる、大事なことをピックアップしてメモできるということが養われなくなってしまいます。まさにこのように育ってきた学生さんたちを私たちは視能訓練士という職業人を育てていくというミッションがあります。

そのため、教員研修の当初の3つの目的はもちろんのこと、社会情勢や教育環境によって変化している現状に対しどう対応していけばよいのかということも研修内容として加盟校の先生からの要望もいただくようになりました。

そこで、学生指導、カウンセリング技法、学生が自ら学ぶ力の育て方などを研修内容として取り入れてきました。第6回教員研修は1日目に大阪医療福祉専門学校の鈴木操先生に『自ら学ぶ力』を育むためのヒント ～have to から want to へ～』の特別講演をしていただきました。実習指導者からの苦情（非常識、受身な態度、コミュニケーション不足など）を受けることが多くある。なぜ学生がそのような指摘をうけるのかを考えたとき、「自律性」がないためではないかという結論に至った。自律性とは自分で自分の行為を規制し、外部からの制御から脱却して自身のたてた規範に従って行動することである。周囲の環境に不満を言わないことである。しかし、学生を取り巻く環境はどんな状況にも必ず慣れてしまい、ついこの間まで幸福を感じていたものでも飽きてつまらなくなってしまうヘドニック・トレッドミル現象をおこしているという外発的動機づけに振り回されている現状がある。「人よりも上」「今よりも多く」という価値観から転換し、have to=～しなければならない、から want to=したいからする、本当のゴール を目指す教育が必要である、とのご講演をいただきました。学生を評価判定せず、プロの仕事を「魅せ」、～したいと学生が思うようになるような教育をしていくことが大切であると教えていただきました。今後の教育に生かせるご講演でした。ご講演の後、各校での指導内容をテーマとした分科会形式のグループワークを行いました。ご講演を受けて有意義なグループワークとなりました。

2日目にはグループワーク発表のあと、賛助会員（株）JFCセールスプラン様に「光干渉断層計（OCT）セミナー」を開催していただきました。OCTは眼科で最も注目されている機器であり、大変勉強になりました。今回の教員研修においても、昨年に引き続き賛助会員様に器械展示もしていただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。全国視能訓練士学校協会教員研修では今後も社会情勢や教育環境をテーマとし、ますます有意義な研修にしていきたいと考えております。

お忙しい中、企画から開催、報告書作成まで大変ご尽力いただきました、教員研修ワーキンググループの諸先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

全国視能訓練士学校協会  
会長 赤松滋子



## 編集後記

全国視能訓練士学校協会の教員研修も 6 回目になりました。今回の研修では昨年の形態を踏襲し、2 日間学生教育について各校での傾向と対策を学び合うことを目的とし、1 日目は「自ら学ぶ力」というタイトルで大阪医療福祉専門学校 鈴木操先生にご教育講演を頂きグループワークを行いました。2 日目は「各学校の指導内容と取り組みと改善」について、教員として非常に身近で重要な 5 つのテーマに分れグループワークと発表およびセミナーを行いました。

参加者数も年を追うごとに増加し、今回は 17 校 38 名の参加者でした。20 年前（平成 5 年 8 月）になりますが、全国視能訓練士学校協会の前身である視能訓練士養成校連絡会として「公開授業」の研修を実施したときは参加校 7 校でした。若い世代が多数参加し、日々の教育と一緒に悩み考え、懇親会の席においてさえ、熱心に討論しあう姿は大変頼もしく、明日の視能訓練士教育に大いに期待できるとの印象を受けました。

研修が皆様の日々の学生教育にお役にたつことを願い、研修報告書を早くお手元にお届けしたかったのですが、ワーキングメンバー-新入りの担当で大変遅くなりました。参加者の皆様の真摯な情熱と教育にお応えできず、研修報告の発送が遅くなってしまったことを平身低頭よりお詫びいたします。

次回の教員研修会にはさらに充実したものになるよう努めさせていただきますので、今後ともどうぞ宜しくご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。



## 全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

|    | 施設名               | 学科名                          | 所在地       |
|----|-------------------|------------------------------|-----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校      | 視能訓練学科                       | 北海道札幌市    |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校   | 視能訓練士学科                      | 北海道恵庭市    |
| 3  | 東北文化学園専門学校        | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 4  | 東北文化学園大学          | 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻   | 宮城県仙台市    |
| 5  | 仙台医健専門学校          | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 6  | 新潟医療技術専門学校        | 視能訓練士科                       | 新潟県新潟市    |
| 7  | 国際医療福祉大学          | 保健医療学部 視機能療法学科               | 栃木県大田原市   |
| 8  | 専門学校日本医科学大学校      | 視能訓練士科                       | 埼玉県越谷市    |
| 9  | 帝京大学              | 医療技術学部 視能矯正学科                | 東京都板橋区    |
| 10 | 東京医薬専門学校          | 視能訓練士科                       | 東京都江戸川区   |
| 11 | 首都医校              | 視能療法学科                       | 東京都新宿区    |
| 12 | 北里大学              | 医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻 | 神奈川県相模原市  |
| 13 | 平成医療専門学院          | 視能訓練学科                       | 岐阜県岐阜市    |
| 14 | 東海医療科学専門学校        | 視能訓練科                        | 愛知県名古屋市   |
| 15 | 愛知淑徳大学            | 健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻        | 愛知県長久手市   |
| 16 | 名古屋医専             | 視能療法学科                       | 名古屋市中村区   |
| 17 | 洛和会京都厚生学校         | 視能訓練士学科                      | 京都市山科区    |
| 18 | 滋慶京都学園 京都医健専門学校   | 視能訓練科                        | 京都市中央区    |
| 19 | 大阪人間科学大学          | 医療福祉学科 視能訓練専攻                | 大阪府摂津市    |
| 20 | 大阪医専              | 視能療法学科                       | 大阪市北区     |
| 21 | 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校 | 視能訓練士学科                      | 大阪市淀川区    |
| 22 | 神戸総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 兵庫県神戸市須磨区 |
| 23 | 川崎医療福祉大学          | 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻         | 岡山県倉敷市    |
| 24 | 松江総合医療専門学校        |                              | 島根県松江市    |
| 25 | 福岡国際医療福祉学院        | 視機能療法学科                      | 福岡市早良区    |
| 26 | 平松学園 大分視能訓練士専門学校  |                              | 大分県大分市    |
| 27 | 九州保健福祉大学          | 保健科学部 視機能療法学科                | 宮崎県延岡市    |
| 28 | 西日本教育医療専門学校       | 視能訓練士学科                      | 熊本市東区     |

平成25年度  
教員研修会報告書

平成26年3月31日発行

発行 全国視能訓練士学校協会  
1  
平成25年度事務局 大阪医療福祉専門学校  
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-14

〈 許可無く複写転載を禁ず 〉